



COMMEMORATING
35 YEARS OF
FUKUTAKE
EDUCATION
AND
CULTURE
FOUNDATION

COMMEMORATING 35 YEARS OF
FUKUTAKE EDUCATION AND CULTURE FOUNDATION



FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION



**COMMEMORATING
35 YEARS OF
FUKUTAKE
EDUCATION
AND
CULTURE
FOUNDATION**

公益財団法人福武教育文化振興財団は、教育と文化芸術の両面から人づくり、地域づくりに取り組む活動を応援しています。民間の助成財団として1986年に設立して以降、活動地域を岡山県内と限定し、助成事業を中心に表彰事業などを通して地域活性化を行っている全国的にも稀有な存在の財団だと自負しています。

2017年に理事長に就任してから5年が経ちました。この間、地域社会が抱える課題はより複雑に、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わりました。更に新型コロナウイルス感染拡大は、いろいろな方面に影響を与えています。その時々状況や課題に対応すべく、事業の見直しや新しい事業に取り組んでまいりました。

この冊子は、35周年を記念して作成したものです。

巻頭では、林原美術館館長の谷一先生と対談し、大局的な視点で、私ども財団への忌憚のないご意見、エールをいただき、今までの活動、今後について深く考えることができました。

「十人十色」では、かつて「助成を実際に受けられた方」6名に、現在も精力的に活動されている様子を個別に取材させていただきました。各地域、各分野での事例として、皆様に共有していただけたらと思います。

また、2008年度から教育文化活動助成を受けられたすべての団体・個人に「アンケート調査」を実施し、集計結果をとりまとめました。今後の助成制度や助成先団体の支援の在り方など財団活動に生かそうとしています。

教育や文化のさまざまな人やグループが、さまざまな活動を通して結びつき、形を変えたり、成長したり……その活動を支え、媒介となることが財団の存在価値ではないかと改めて考えるよい機会となりました。

地域に根ざした財団だからこそできることを大切に、地域の教育や文化を大事に、これからも人づくり、地域づくりに取り組む活動を応援してまいります。

2022年6月

公益財団法人 福武教育文化振興財団
代表理事 理事長 松浦俊明

ごあいさつ

輝きははじめようとする小さな光を見出す
—「福武らしさ」は、地域に根ざした財団だからこそ

【対談】谷一尚 × 松浦俊明 …… 4

十人十色

写真の力で

地域につながりと活気を取り戻す

山本輝美さん …… 14

“クリエイター移住”の旗を立てたら人が集まり、地域が変わった

森美樹さん …… 18

忘れられていた

古墳の価値を呼び覚ます

定廣好和さん …… 22

ローカルなアートリンク活動で、グローバルに成長する

田野智子さん …… 26

ふるさと井原の

「ひと」と「しごと」に出会う場所

藤井剛さん …… 30

岡山を音楽で表現し、世界中に発信したい

山地真美さん …… 34

アンケート調査結果からみえてきたもの

【対談】成清仁士 × 青尾謙 …… 38

「より効果的な助成事業にするための」アンケート調査—概要報告 …… 42

資料編

福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育

奨励賞—受賞者一覧 …… 54

福武文化賞・福武文化奨励賞

—受賞者一覧 …… 58

福武教育文化賞

—受賞者一覧 …… 62

助成の歴史—教育文化 …… 63

助成の歴史—教育 …… 64

助成の歴史—文化 …… 68

オーストラリア・プレ体験留学 …… 70

講演会・フォーラムの記録 …… 71

andF教室の記録 …… 75

福武教育文化叢書の記録 …… 76

海の劇場の記録 …… 77

財団年表 …… 78

役員・評議員一覧 …… 80



谷一館長(左)と松浦理事長

輝きはじめようとする小さな光を見出す

「福武らしさ」は、地域に根ざした財団だからこそ

【対談】

谷一尚 × 松浦俊明

福武教育文化振興財団理事
林原美術館館長

福武教育文化振興財団理事長

2007年に評議員として財団に関わり、以後表彰の選考委員、助成事業の審査委員など財団の主な事業を支え、現在は理事として携わっていただいている谷一尚氏（林原美術館館長、山陽学園大学副学長）と松浦俊明理事長が、財団が果たしてきた役割と今後について語り合いました。

松浦理事長 谷一先生が財団に関わってくださるようになったのはいつからですか。

谷一館長 2007年が最初ですね、評議員としてです。

松浦理事長 財団に対してはどのような印象をお持ちでしたか。

谷一館長 岡山における「福武」という存在は大きいですから、一言で言うと「身に余る光栄」ということですね。

松浦理事長 私自身は、2014年から参与という形で財団の姿を見ていて、母親の福武純子が理事長になり、2015年から副理事長という立場で関わるようになりました。

谷一館長 評議員として1年間やって、2016年からは理事として入りました。その間は、賞の選考委員と助成の審査委員をやっていました。ですから現場のことがよくわかりました。審査委員なんかは特にそうでしょう。財団はこういうことをやっているんだということがわかりますから、そういう意味では財団のことがよく理解できたし、面白かったですね。福武の教育文化活動に自分が参加しているという実感を強く持てました。

松浦理事長 前理事長から財団がどういうもので、どういうことをしていきたいという話は聞いていました。2017年理事

長になってからも、そういう点での迷いはありませんでしたが、ただ、それ以前がどうだったか正直あまり詳しくは知りませんでした。

この10年間で大きく変化してきている

谷一館長 理事になってから事務局からよく声を掛けていただいて、「ここに行きますけど、一緒にいかがですか」と誘われ、「じゃあ、僕も行こうかな」ということで、あちこち連れて行ってもらいました。審査の書類だけではわからないことも多いので、現場への同行はものすごく意味があったように思いますね。

松浦理事長 私も参与のときに、事務局と一緒に県北の方とか、各地の市長さんに会いに行ったりしました。

谷一館長 財団は、ここ10年でもものすごく変わってきていますよ。変化していると思います。

松浦理事長 それはどういったことが一番変わってきたなと思われませんか。

谷一館長 一言で言うと「福武らしさ」。地域に限定した民間の助成財団というのは、おそらく福武教育文化振興財団くらいで、全国ではほかにほとんどないと思います。最初のころは手探りで、何をやるたらいいか考えながら動いていたように思います。ここ10年くらいからは、「福

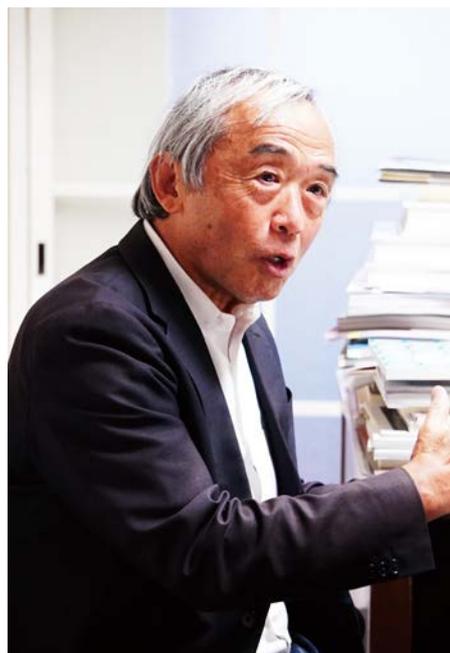
武らしさはこういうものだから、こう打ち出していこう」のようなものが明確に提示できるようになった。それは教育文化賞にしても、選考基準などを必要に応じて変えている。あれはやはり大きいと思います。

松浦理事長 2007年に福武教育振興財団と福武文化振興財団を統合し、人づくり、地域づくりをテーマに事業をシフトしました。2010年から瀬戸内国際芸術祭（以下「瀬戸芸」）が始まって、さらに地域との関わりが強くなってきたようにも思い

ます。

谷一館長 瀬戸芸が始まって、みんなの意識が地域に向き始めたというのが正解かもしれません。それまでは、文化の普及とか伝承とか、教育の学力向上とか、いわゆる一般的でした。どこの財団でもやっているようなことを踏襲していたのだと思います。

松浦理事長 財団と関わり始めた当時、「学力向上」の名残があって、教えて考えさせる授業やオーストラリア留学など、学力に直結するようなことが結構ありました。それが机に向かった学習や教育から、アクティブラーニング系に移っていった……。例えば財団が助成なり表彰するような教育というのは、学校現場の教育というよりはむしろ地域に出て学び、生きていく上での学び的なところが大きくなったイメージがあります。それがワクワク感的なものとか、楽しいとか、そういう学びになっているように思います。



谷一 尚 TANIICHI Takashi

1952年岡山市生まれ。東京大学文学部卒。同大学院博士（文学）。岡山市立オリエント美術館館長を経て、現在は林原美術館館長、山陽学園大学副学長。

財団としては、教育と文化という二つの柱のうちの一つが教育なのですが、地域の教育的な課題が学力中心から少し変化してきていると思います。谷一館長としては、この点については、どういう具合に思われていますか。

谷一館長 それは必然的な流れですし、私はいいことだと肯定的にとらえています。

松浦理事長 一人の親として、子どもにどちらを受けさせたいかと考えた時には、やっぱり子どもがワクワクするとか、自分が学ぶことが楽しいと思えるような、そういう教育の機会が身近にあった方が、子どもにとってより豊かではないかと思えます。

谷一館長 よく「目が輝く」という表現をする先生がいます。「子どもの目が輝いているよ」と。あれは大きいと思っています。「岡山の子どもたちがみんな輝いている」というのが教育のひとつの成果で

はないかと。福武が目指しているのはそこにあるのではないかと。

松浦理事長 最近の助成や表彰の対象となった活動に参加している子どもさんを見ていても、ただ「勉強できます」という雰囲気の子どもではなくて、とてもいきいきしている。

いいものはフットワーク軽く

谷一館長 もともと岡山にはいきいきとした子が多かった。勉強ができる子はもちろん頑張っていたから成績も良いので



松浦俊明 MATSUURA Toshiaki

1981年名古屋市生まれ。横浜国立大学工学部卒。大手IT企業勤務を経て、福武教育文化振興財団参与、副理事長を経て、2017年から理事長。

すが、でもそうでもなく、頑張り屋さんや活躍するような場面がたくさんあったと思うのです。太陽がふんだんに降り注ぎ、雨や雪が少ない気候風土があるのかもしれませんが、元気いっぱいの子どもに、岡山らしさがあったように思います。「多様ないろいろな能力」をみんなが持っている、その人が伸ばせるべきものを伸ばしていき、そういう子どもをたくさん育てたら、それが総合力になるのではと思うのです。財団が目指しているのはそういうところではないのかと、最近では強く感じています。ここ10年間は特にそれが顕著に出ていて、今の方針をそのまま貫いていければいいのでは。そういう気がします。

松浦理事長 成果が数字みたいには出てこないところもありますが、フットワークは軽い財団なので、「これがいいのでは」と思ったものに支援をやっていけるというのがいいかもしれないですね。理事の方にも賛同していただけるし、「成果はどうなんだ」とか言ってくる人たちもいません。ですから動きやすい。地域も絞っているということもありますし。日本全体で見るとそんなに目立たない活動かもしれないですが……。文化の面というのは、これもまた数値では表しにくいものです。今の岡山地域の文化状況と、



福武教育文化振興財団の果たす役割みたいなものについて、どのように思われますか。

谷一館長 古いものを残しながら、一方で新しいものを取り込んでいく——「多様性」という言葉が合っているかどうかわかりませんが、みんな新しいものにしてしまって古いものを全部捨ててしまうというやり方は、ある意味で文化の破壊にもつながります。文化のどこの部分を保存して、どういう部分をこれから伸ばしていくか、その辺りをもう少し財団としても考えながら今後の方向性を出して

て文化になってきているようなところがあると思います。そういう意味では、新しいことをどんどん取り入れていき、それが昔からあるものと融合する。これも文化になっていくものだと思います。財団としては教育と文化の視点から地域振興をしていく。そこに暮らす人々が目指すいい地域になるための教育や文化活動を支援していきたいというのがありません。

以前、21世紀美術館（金沢市）に行った時にすごいなと思ったのは、美術館は地域の人たちに向けていろんな活動をやっているんだけど、外からどんどん人が来ている。流行に惑わされずにここでこうやっていきたいというものをずっとやっていくべきなんだろうなと思いました。**谷一館長** 文化というのは、選択ですよね。残すべきもの、継承すべきものというのは、やっぱりよく考えて、継承していくものは選択して残していかないといけないんです。何もかも全部を残そうと思ったらとても無理なので、そこに新しい核となるような新しい文化をどう加えていくか。それが地域全体の力になっていき、「文化力」というものになるのでは。そういうものだろうと思っています。

松浦理事長 岡山が外から見てすごく魅力的な所になるといいですね。「いいな、



岡山は」と言われるような、それが理想ですね。

谷一館長 そうなりつつあるんじゃないですか。町おこし村おこしでも、そういう点が随分あるように感じます。

松浦理事長 「そういう財団があっけないな」みたいなことを、金沢市に行った時には言われました。岡山は、なかなかいいポジションにいるのではないかと思います。

谷一館長 そう思いますよ。岡山自体がそうだし、福武の財団自体もそういうところ、ちょうどそういう位置にいるので、これからの方向を間違わないようにすればね……。

財団が果たす役割とは？

谷一館長 それはやっぱり助成でしょう

ね。実際には、労働力が資金かということになるんです。本当は直接行って支えていけばいいんですが、外の人間がそれをやり過ぎると、頼りすぎて現場が機能しなくなっていく。そうではなくて、自分たちの文化は自分たちで守る、自分たちの地域は自分たちで興すという、現場の地力というか原動力を育てていく——そんな財団のやり方が必要ではないかと思えます。

松浦理事長 財団をつくるときに「この地域に限定」したという当初の思惑とかはわかりません。ですから「岡山限定だから、財団ではできないな」みたいなことがあったんですが、絞られているからこそ小さいところまで目が届くというか、細かい所まで目が届くという利点がある。そこを今は生かしているなというのがあります。大きくなればなるほど、光っているものにしか目がいかなくなりがちですが、輝き始めているくらいのところに目がいくのが、この地域限定財団のいいところかなと思います。

谷一館長 いいところですよ。いい言葉です。輝き始めているというか、これから輝こうとしているところを見出して、そこに財団として応援する、そういうのが必要だと思います。それは地域に密着して、ちゃんとその地域を知っていない

と、そういう援助とかはできにくいですから、やはりそこは今の財団は成功していると思います。

松浦理事長 これから文化活動や教育活動をやっていく人たちが助成を受けるに当たって、どういう心構えで「福武教育文化振興財団」を活用したらいいのか、経験ある立場の人から、何かアドバイスはありませんか。

谷一館長 「福武らしさ」という言葉で表現していますけれども、福武教育文化振興財団はこういうことをやっている人に助成するんだ、それはこういう目的があるからなんですよということを明確に打ち出せるようになりました。申請する側も、その精神をよく理解していただき、活動を申請する。あるいは方向性をもって成長していこうという意志を明確に打ち出すような申請を出してもらうことが必要ではないかと思えます。

幅広い世代からの助成申請を

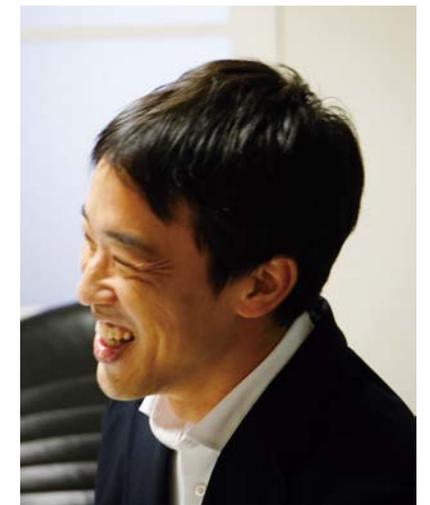
松浦理事長 若い人の申請がもっと多くなってくるといいかなと思っています。

谷一館長 たしかに、若い人からの申請が増えるといいですね。

松浦理事長 申請のしやすさなども少し考えていきたいとは思っています。どうなると若い人が申請しやすくなるのか、

というようなことですね。どの年代からも来るというのが理想です。助成を受ける人たちへのメッセージと、財団の今後に期待することがありましたら教えてください。

谷一館長 基本的には、今の姿勢を継承していくというか、継続していく。「継続が力」ということもありますよね。これでいけるという道筋なりルールがはっきりするのであれば、そのルールは堂々と推し進めていけばいいと。申請する側も、福武教育文化振興財団は地域に力を与える活動をしているのだから、自分たちもそれをうまく利用する。言葉は悪いけれども、福武の応援を力にしながらその方





向へ自分たちの活動ももっていこうという明確な意図を持って申請してほしいと思っています。

松浦理事長 35周年で教育文化活動助成に関する総合的なアンケートを取りました。希望されていることや、こういうことをやれたら良かったのにできていなかった——という課題が見つかりました。今後はそのような課題の強化も必要かなと。財団が何かするというのではなく、「ハブ」になっているのが現状なので、その「ハブ」の機能をどんどん強化し、より地域と地域がつながりやすくするための潤滑油のような役割になりたいですね。助成する場合も、助成先の活動の認知度が上がり、その活動がいろんな所に刺激を受けながら変化し展開していくことを

期待しています。その刺激の機会を増やすというようなことを仕掛けていけたらと思っています。

谷一館長 より滑らかに、潤滑油を皆さんに提供するということですね。とはいえ財源に限りはあるわけで、「選択と集中」は必要だと思いますね。ここが一番だということをちゃんと見抜いて、本当に真摯にやっている活動に対して援助を続けるということが必要でしょうね。

松浦理事長 今日は参考になるご意見をたくさん聞くことができて勉強になりました。お忙しい中、ありがとうございました。今後とも岡山の教育文化活動の発展のために力を貸していただけたらと思います。

(対談日：2021年11月16日／場所：林原美術館)



{ 十人十色 }

財団が応援する人・団体は、
岡山県内のさまざまな地域、分野で
精力的に活動を続けています。
その姿は、まさに十人十色。
輝く人たちの現場を訪ねてみました。



写真の力で 地域につながりと 活気を取り戻す

コンシーデレ山手

山本輝美さん

TERUMI Yamamoto



空き家の活用で定住を促進

コンシーデレ山手は、山手地区への移住・定住の促進を目的として2015年に発足した団体です。山手は、久米南町の南部、岡山市、赤磐市と隣接する中山間地域ですが、高齢化が進み、子どもは数人という大変厳しい状況で、もはや「限界集落」ではないかという危機感がありました。

伝統行事もだんだんと続けていくことが難しくなっていました。たとえば、京都の百万遍で有名な「数珠回し」の伝統が昔から山手にもあって、夏休みに地域の講組の人たちが集まって、大きな数珠を順に隣に送りながら念仏を唱えるのですが、そうした行事ができなくなっていました。お宮の管理も難しくなっているという状況でした。

ただ、山手にはぶどう作りの産業があるので、ぶどう農家さんが他地域から通いで来ているという特徴がありました。だから消防団なんかは、地元の若者2~3人と、あとはぶどうに來られている農家さんに入ってもらっていました。働く場所はあるのですが、住む場所がない、だからよそから通って來られている。空き家はあるけれど、すぐに貸すという話にはなかなかならない。そこで、コンシーデレとして、空き家の利活用をしていこうということになりました。



団体プロフィール

コンシーデレ山手

2015年に発足。久米南町山手地区で、移住・定住推進を目的とした活動を行っている。「コンシーデレ」とはラテン語で「定住」のこと。

空き家の持ち主に連絡して、空いたままでは危険家屋のようになって家としての価値もなくなる、だからまずは風通しをさせてくれないかと。そう言うのといてい、「お墓が山手にあってお墓が心配だから人には貸せない」と言われます。そういう場合は、「お墓の掃除もやりますよ」と言うのと、貸してもいいかなと思ってもらえるんですね。そうやって草刈りをしたり、家の修繕をしたりして、移住希望者とのマッチングを図ります。今や、空き家だけでは足りなくなって、家を新築される移住者の方も出てきています。

僕は山手の生まれですが、一時期、山手を出たことがありました。結婚して再び戻ってきたのですが、その頃はかつてぶどう畑だった場所が荒れて、ジャング

ルようになっていました。それが今では、新規就農される方が一生懸命切り拓いて、だいぶ畑に戻りつつあります。

フォトコンテストで地域の魅力を再発見

コンシードレ立ち上げの初年度から、福武教育文化振興財団の助成を受けて、夏祭りでの「山手フォトコンテスト」を開催しています。毎年テーマを決めて(たとえば2021年は「コロナに負けない」)、写真を公募し、その中から優秀作品を表彰するというものです。もともとは活動資金を集めるために助成を探していたので、フォトコンテストという企画は最初からあったわけではありませんでした。教育・

文化で何かをやらんといけん、でも僕らは素人集団だし、山手の住民も働けただけで精一杯という中で生きてきた人たちがかりです。写真なら誰でも撮れるんじゃないかと、藁にもすがる思いで始まり、何度もみんなで集まって「これならできやせんか？」と話し合いを重ねました。おそるおそるのスタートでしたが、やってみたら大きな効果がありました。

100歳を超えるおばあちゃんが、フォトコンテストのためにカメラやスマホを手に取り写真を撮ってくれたり、応募された写真を見て、「山手って、きれいな場所じゃなあ」「こんなにええところに住んだったんか」と思えたり。移住してこれた方にも「こういうところで働けるんじや」と思ってもらえたり、地元の人と新



しい人が集まった時に、共通の話題ができてお互い話をするきっかけができたという点でも大きな成果です。

会場には、山手の全家庭約60戸のファミリーフォトを展示しました。それまで家族写真を撮ったことがない家庭ばかりで、我が家も初めてでしたが、大変好評で、写真の力を感しました。

それから、11月から2月まで毎週金曜日にごはんを持ち寄って集まって、地域居酒屋をやるようになりました。子どもたちは何家族かで集まって一緒にゲームをしたりDVDを見たりしています。せっかく夏祭りでつながりができたのだから、その後もつなげていこうということで始まったのですが、これもフォトコンテストのおかげです。

報告会で他団体とのつながりを

財団の助成にお世話になって特にありがたいのは、助成成果報告会で、他

の助成団体とのつながりができたことです。今年(2020年度)はコロナ禍でオンライン開催でしたが、それまでは会場でされていたので、いろいろな活動をされている団体さんとの接点になっていました。僕らのような田舎の小さな団体にとっては、あのような場がないと、なかなかつながりが持てない。「他にもこんな助成金があるよ」という情報なども入ってくるので、とても大切な場です。

コンシードレの取り組みは、少しずつ軌道に乗り始めています。僕自身も、日中は外に働きに出ているので地域活動の場といたら消防くらいしかなかったのですが、コンシードレの活動を通して地域の人との接点を持てるようになりました。今後は、山手に残っている屋号のいわれなどを掘り起こしていきたいと思っています。



山手フォトコンテスト



“クリエイター移住”の旗を立てたら人が集まり、地域が変わった

うのづくり実行委員会

森 美樹さん
MORI Miki



クリエイティブな人の移住をサポート

私は広島市の出身で、倉敷芸術科学大学修了後の2007年に玉野市に移住してきました。初めて来た時に、「いいところだな」と思いました。祖父母が呉市にいたので、瀬戸内海の景色や雰囲気は、自分の中に違和感なく、スッと入ってきた。迷わずにここに住むと決めました。

宇野港近くのアトリエでガラス作品の制作をしながら、うのづくり実行委員会の活動をしています。うのづくりは、クリエイティブな活動をしている人やしたい人、そうした活動が好きな人を全国から、あるいは世界から、宇野に呼び込もうという移住プロジェクトです。クリエイティブな移住者を増やすことで、宇野港界隈を楽しく暮らせる町にしたい。企業や行政まかせの再開発ではなく、一人ひとりと向き合いながら、ゆっくりと着実に、負荷が少ない楽しい田舎町や港町を、住む人の手で実現していこうというものです。

移住希望の方と家探しをすることもありますがし、地域の紹介や、住民や先輩移住者とのご縁をつなぐこともあります。「玉野でこういう活動をしたい、こういう暮らしをしたい」ということに関する、できる限りのサポートをしています。たとえばゲストハウスをやりたい方がいて、住



団体プロフィール

うのづくり実行委員会

2011年に玉野市で発足。主にクリエイティブな活動をしている人、したい人などに、宇野港エリアへの移住サポートを行っている。「宇野に住んで+つくる」という意味で「うのづくり」と命名。

居兼ゲストハウスになりそうな物件があっても、大家さんにとっては、なかなか住むこと以上のイメージが湧かなかつたりするので、「こういう改装をしても大丈夫ですか？」といったすり合わせを、間に入ってお手伝いすることもあります。

2011年にうのづくりを立ち上げた時、7年半で50組100人の移住を目指そうという目標を立てたのですが、この目標は7年でクリアできました。相談件数は、大家さんも含めて、年間累計200人くらいに対応していて、年間10組弱くらいの方が移住されています。

この、うのづくり実行委員会は、2010年に「玉野市中心市街地活性化基本計

画」ができた時に発足したアート部会が前身です。公的なところから始まっていて、立ち上げ時には住民向けの説明会を開いたり、町内会の会長さんにもお声をかけたりしたのも良かったようで、うまく信頼関係も築けていると思います。

3カ年継続助成で 順調なスタートアップ

私はそのアート部会の頃から参加していましたが、誰か専従でやる人がいたらもっと企画を詰めていけるということになり、たまたまそばにいた私が「じゃあやりましょうか」といって、うのずくり実行委員長を引き受けることになりました。立ち上げの2012年度から3年間、福武教育文化振興財団の助成金をいただきました。ドキドキしながら申請書を書いて出したら、3カ年助成を受けられるとい



う連絡が来て、「え、3年もいただけるんですか!」と驚きました(笑)。

2012年度には「ずくりワークショップ」という、魅力的な地域活動をされている方を全国から招いてワークショップを全6回行いました。その時に参加者として来てくれていた人が、今では市の内外で、地域活動を中心に担っていたりしています。私にとってもご縁が広がるきっかけになりました。

2013年度には、母体の事務所があり、今この取材を受けている「東山ビル」でリミックスマーケットを開催。空きビルになっていたこの建物を貸していただけることになり、大掃除をした時に出てきた古いものたちを出品しました。

最後の2014年度には、衣食住を切り口に、ファッションをテーマにした写真小冊子を発行したり(衣)、玉野魚市場にて「朝市ごはん会」の開催(食)、建築家・高原正伸氏の「自邸『54帖の中庭』」の見学(住)などを行いました。

助成は、「やってみたいけど収益面ではなかなか難しい」ということにチャレンジ



できるので大変ありがたかったです。だからこそ、お金じゃない部分の価値というか、返ってくるものが大きかった。助成が終わった後も、こうして取材やシンポジウムに呼んでくださったり、応援してくださっているのが大変ありがたいです。

うのずくりと創作活動は地続き

「クリエイティブな方の移住をサポートします」という旗を立てたことで、「何かしたい」という思いを持った人が集まってきて、ゲストハウスやお店を開いたり、東山ビルをはじめ、各々を拠点に活動が広がっています。宇野に楽しい要素が増えて、相乗効果で地域が魅力になってき

ている。私が移住してきた当初は、商店街も閉まっているお店が多く、寂しさがあったのですが、今は感覚的にはだいぶ違います。外から見たら微々たる変化かもしれませんが、それでも立ち寄れるお店が増えたというのは、住民としては大きな変化です。

私はガラス作家ですが、創作活動とうのずくりと、別のことをやっているという意識はないんです。ガラス作品を通して社会へのアプローチというか、外の世界に対して、未来や希望を感じてもらえるものを提示したいと思っています。移住支援も、人の暮らしにとっての楽しさや、未来に向かう活力のお手伝いをさせてもらっている。だから両者は地続きの活動なんです。



空き家について考える・住まいと暮らしに関する
ずくりワークショップ 2021
「建物から見る玉野 vol.1 玉地区を歩く」

忘れられていた 古墳の価値を呼び覚ます

造山古墳蘇生会

定廣好和さん

SADAHIRO Yoshikazu



転勤族だったからこそ、地域に 貢献したい

5世紀前半に築造された造山古墳（岡山市北区新庄下）は、全長350メートル、高さ30メートルと、全国でも第4位の規模を誇る巨大な前方後円墳です。一般市民が墳丘にのぼって見学できる古墳としては、日本で一番大きな古墳になります。2018年には、この造山古墳を含む遺産群が『『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま〜古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語〜』として日本遺産に認定されました。2020年にはビジターセンターがオープンし、ここを拠点に造山古墳や遺産群の魅力の発信が行われています。

この辺りは今ではきれいに整備され、巨大な古墳の稜線を眺めることができますが、実は長い間ここは「忘れられた存在」となっていました。木や蔦がうっそうと繁茂し、周辺の民家には大量の落葉などの被害が出ており、住民は困り果てていました。木はどんどん大きくなってきますから、このままでは木の根で古墳が壊されるのではという心配もありました。そんな状況が長く続いていた中で、2007年に私が造山町内会長に就任することになったんです。

私は、この造山古墳を擁する旧高松町で生まれ育ちましたが、社会人になってからは長らく、辞令ひとつであちこちへ



団体プロフィール

造山古墳蘇生会

(つくりやまこふんそせいかい)

2009年設立。造山古墳ボランティアガイドの養成、考古学の第一人者を招いて講演会の開催などを行う。2020年に開館した岡山市造山古墳ビジターセンターの委託管理もしている。

転勤になる、流転のような人生でした。13年にわたる単身赴任が続き、関東で勤務した後、姫路に異動になったので、これで次は岡山だと思っていた矢先、また関東へ辞令が出た。もう精神的にも疲れていたの、そこでピリオドを打つことに決め、岡山に帰って来ました。岡山の会社にも数年勤めた後、自分は漂流したような人生を送ってきたので、何か地元でできることはないかと思っていたところに、町内会長の話が舞い込んできたんです。

町内会長になって最初にしたのは、樹木の伐採など、古墳整備の要望でした。そして、地域住民にもう一度、造山古墳



に関心をもってもらうために、何か手立てを講じなければいけないと思いました。関心があれば荒廃は免れるんじゃないかと。そのためには造山古墳の価値を理解してもらわないといけない。やまれぬ思いで模索していた中で、岡山大学で考古学を研究していた新納泉教授（当時）と出会いました。

大盛況の新納教授講演会

2008年7月、新納教授による造山古墳デジタル測量調査結果報告会を開催しました。もともと、新納教授から報告会を

したいということで、造山町内会長の私に連絡があったのですが、「これは町内の小さな公会堂でやるような内容じゃないですよ。広く高松地区住民、全員に聴いてもらうべきです」とお伝えして、高松公民館で開催することにしたんです。当時はまだ前例もなかったことで、人も大して集まらないだろうと言われていたのですが、私も燃える男ですから、何くそと（笑）。2階の一番大きな部屋をとって、チラシも一生懸命作った。そうしたら当日は、公民館始まって以来の入場者数を記録しました。途中から椅子も足りなくなって、立錫の余地もないくらい、多くの人が集まりました。それで、今まで地

域住民は、本当は造山古墳に関心がありながらも、動きがないから眠っていたんだなと思わしてね。それがここで目覚めたんだと。

こうして蘇生会発足に向けて動き始め、2009年には第1回目のボランティアガイド養成講座を開催しました。造山古墳には毎年、小学校の校外学習として多くの児童が訪れていました。しかし、先生たちも古墳に詳しい先生ばかりではないし、子どもたちは次の国分寺でお弁当を食べることに気をとられていて、ここは素通りしてしまう。それを何とかしたいという気持ちがありました。自分自身も転勤族で、子どもたちに造山古墳のことを何も教えずにきてしまった。そのことが心にずっと引っかかっていた。きちんと価値を伝え、理解してもらうために、古墳のガイドが必要だと思ったんです。いわゆる観光ガイドではなく、小中学生や一般人を対象に、造山古墳や吉備の歴史について語れるガイドを養成しようと決めました。このボランティアガイドは、現



岡山市造山古墳ビジターセンター

在も蘇生会の活動の大事な柱になっています。

助成が背中を押してくれた

福武教育文化振興財団からの助成をいただいたのは2009年、正式には蘇生会設立の前でした。吉備の大王像と石碑を造山古墳の駐車場に設置することが決まり、そのお披露目を兼ねて、4月に祭りをやろうということで、助成を活用しました。そして5月に設立総会を開催。まだ会が産声を上げる前の、不安な時期に助成決定の連絡を受け、強く背中を押してもらったと感じました。設立後も、私は資金を集めるために駆けずり回りました。「今まで誰もやってこなかったのに、造山古墳をよくぞ取り上げてくれた」と、たくさんの方の応援をいただき、それが私の自信にもつながりました。

今では、地域住民から一戸あたり毎年100円を出してもらい、蘇生会の活動費に充てています。助成に頼りきったままでは、地域住民にとって蘇生会の活動は他人事のようにになってしまう。住んでいる人がみんなでお金を出しているということが大事なんじゃないかと思います。たかが100円、されど100円です。

この蘇生会のバトンを安心して手渡せる、次のリーダーが現れるまで、私ももうひと踏ん張りしようと思います。

ローカルな アートリンク活動で、 グローバルに成長する

ハートアートリンク

田野智子さん
TANO Tomoko



障害のある人たちに 表現を取り戻す

私たちは、障害のある人とアーティストがペアになって作品を制作する「アートリンク・プロジェクト」を中心に、高齢者・障害者・子どもを含めた市民に表現活動を提供する取り組みを行っています。

団体を立ち上げたのは1999年ですが、それまで私は小学校の教員をしていました。受け持っていたクラスに、通級学級(※)に通っている児童がいました。子どもたちはちょっとした差異を気にしたり比べたりしがちですが、障害など、大きな違いを持った子がクラスにすることで、人間関係が変わってくる。教師が教えようとしなくても、子どもたちが自ら関係性をつくっていく、その成長ぶりに本当に感動していました。でも、卒業後は、障害のある子の多くは特別支援学校へ進み、その後は施設に通い始めます。大きくなると別のフィールドで生活することになってしまう。そして絵の具などを使う機会もなくなり、表現活動から切り離されてしまい、生産性の向上ばかり求められる。生産性などの尺度ではない、新しい

(※) 通級学級……通常の学級に籍をおきながら、児童生徒の障害や特性にあわせ、特定の教科や時間のみ、別の教室または施設で個別に指導を受けることができる学級のこと。



団体プロフィール

特定非営利活動法人
ハートアートリンク

1999年設立、2007年NPO法人化、2015年に現在の団体名に改称。芸術文化を取り入れた豊かな生活が日常的にできるよう、長期ワークショップや特別な場所でのワークショップを基本に、多くの高齢者・障害のある人や子どもを含めた市民に表現活動を提供している。

物差しみたいなものを世の中に作りたいたいという思いがありました。

当時はまだ、「障害者アート」という言葉も、ほとんど知られていない時代でしたが、トヨタ自動車から1996年から「トヨタ・エイブルアート・フォーラム」という、障害のある人の作品を再評価する取り組みを、メセナ活動の一環として全国で行っていました。そこに私も参加者として行っているうちに「岡山でもやってみてよ」と言われ、2000年からトヨタと一緒にエイブルアート・フォーラムをスタートしました。でもこれは、1~2年目

は100%トヨタからの出資なのですが、3年目には一部出資となり、以後は自立してそれぞれの地域でやっていきなさいというプログラムなんです。「せっかく仲間ができてやりたいことが見えてきたのに、もうお金が出ない。困ったぞ」ということで助成金を探し始め、福武文化振興財団（当時）と出会いました。

若いアーティストたちも元気に

当時は、アーティスト個人への助成もたくさんありました。個人的な勢いでやっている、突き抜けたアーティストたちの中で、社会性があるかどうかという文脈もまだうまく書けない頃に申請書を書

いて、数多くの活動を御財団に支えていただきました。その頃の岡山って、すごくおもしろかった。私たちがワークショップや展覧会をやっていると、交流したいとってたくさんの若いアーティストたちが東京から岡山に帰ってきた。いい空気感が生まれていましたね。

そして2004年からいよいよアートリンク・プロジェクトを岡山で始めることになりました。この時初めて岡山県から全国に飛び出して、日本財団の助成に手を挙げて100万円の助成を受けました。桁が1つ増えるということで、報告書も丁寧に作ろうと、この時御財団からいただいた助成は報告書作成に使いました。そこにも新進気鋭のアーティストたちに参加してもらった。若い彼らも、やはり新し

いことに参加すると元気になるんですね。次のステップはアサヒビールの「アサヒ・アート・フェスティバル」。こうして全国にネットワークができていきました。

その後、障害者アートだけでなく、高齢者や子どもとアートのコラボレーションを手がけていき、真鍋島や白石島など笠岡諸島でのプロジェクトなども行ってきました。瀬戸内国際芸術祭の最初の年となった2010年には、高松市でアートリンク・プロジェクトを開始。最初は瀬戸芸の開催に合わせ3年おきにやっていたが、2014年度からは継続して「高松市障がい者アートリンク事業」ということで、事業所等へアーティストを派遣して芸術活動を行っています。

とことんローカルにこだわりたい

私もこうした中で、本当に育てられたなと思います。申請書や報告書なんて書いたこともないし、霞が関なんて行ったこともなかったんです。でも、一生懸命書類を書いてたくさん助成をいただき、厚生労働省まで行って報告したり、海外で発表したり、本当に様々な経験をしてきました。ありがたい40代、50代です。関わった人たちも、どんどん成長していきました。マネジメントは地味な裏方作業ですが、それでも会計報告がピシッと合った瞬間なんて、実に美しい。これもア



まちのすきまカフェ「アートデリバリー」

ートですよ。

活動を始めた頃はお金がなかった。報告書を出さないとお金が出ないところもあるから、貯金を崩したり、持ち出しも結構ありました。昔のアーティストたちには満足な謝金を出せず、申し訳なかったです。でも一緒に夢を食べたかな。フロリダへ行くのに旅費がなくて、ライブをしたりTシャツを作って売ったりしてね。

私たちのこれまでの道筋は、たくさんの人と出会い、おしゃべりする中でヒントを得て徐々に切り拓いてきたものです。地中美術館初代館長の秋元雄史さんがある時こう言ったんです。「田野、とことんローカルにこだわるんだ。それがグローバルにつながるから」と。振り返ってみると、こういう言葉が今の私たちに生きていていると思います。



ふるさと井原の 「らむ」と「くがらむ」に 出会う場所



備中志事人

藤井 剛さん
FUJII Tsuyoshi

中高生の「やってみたい」を応援

私は17年間、小学校の教員を務めてきましたが、2013年に井原市教育委員会に異動になり、生涯学習課で社会教育を担当させていただくことになりました。その研修で、認定NPO法人カタリバの方から、若者が自己肯定感を持てずにいるという話をお聞きしました。研修には岡山高校生会議のメンバーも来てくれたのですが、その高校生たちは、当時まだ周りではほとんど誰も使っていなかったタブレットを使いこなしてプレゼンをし、自分たちで作った動画も紹介してくれました。多くの若者が将来に展望を見いだせずにいるという現実と、目の前にいる、熱い思いをもって活動している高校生たちとのギャップを感じたんです。そして、井原市の高校生たちにも、個性をいかして活動できるようになってほしいという思いで、2014年5月に「夢源塾」を立ち上げました（2019年に「Team 夢源♡井原」に改称）。

最初は、高校生たちが多様な大人と出会える場を定期的にもつようにし、その後はだんだん、その大人たちが持っている技術やノウハウに触れ、自分たちで体験してみるという活動も取り入れていきました。「全国高校生『鎌倉』カイギ」という2泊3日の合宿にも、夢源の高校生2人



団体プロフィール

備中志事人

2017年に井原市を中心とした備中地区で発足。中高生たちが、地域で活躍する大人たちと交流しながら、自分たちや地域社会のよりよい未来の実現に向けた一歩をプロジェクト化したり、アウトプットしたりしながら、将来の生き方につなげる機会となる場づくりを進める。第2回福武教育文化賞受賞。

を連れて参加し、全国から集まった高校生と一緒に、自分たちなりのマイプロジェクトをつくるという経験をしました。これが、のちに備中志事人の「コノユビトマレ・キャンプ」につながっていきます。

ちょうど夢源の立ち上げとほぼ同時期に、となりの矢掛町で「YKG60」さんも活動を始めました。2015年になると、メインで活動していた夢源メンバーが受験生になり、9月頃にはいったん活動がストップしてしまいましたが、YKGさんが小中高生まで一緒に活動しているのを見て、私たちが中学生に声をかけてみたところ、良い反応があって活動を再開で

きました。もう少し地域課題にも触れてみようということになり、生涯学習施設のお祭りで、クリエイターさんとコラボして井原デニムのコースターを作って販売するなど、起業家教育的なことも取り入れていきました。当時、中学1～2年生で入ってきてくれた子たちが、今では大学生となって、サポーターズとして後輩たちの活動を支えています。



ジブンゴト学会

域や年齢を超えて中高生のチャレンジを応援しようという取り組みです。

おもな活動の一つが、例年6月上旬に行っている「コノユビトマレ・キャンプ」(合宿)です。自分たちの強みを活かして、誰かのために何かできないかという思いをマイプロジェクト化します。そして1月初旬に、「私はこんなことをしました!」というのを「ジブンゴト学会」で発表する。「こんなことをやりたいです!」でもいいし、「こんなふうに思っています!」でもいい。地域や社会をより良くしたい、人とつながりたいという思いがあれば参加できるのが、このジブンゴト学会です。発表の後は、NPO法人だっぴの森分志学君にファシリテートしてもらって、中高生と大人たちが意見交換しています。

変わっていく子どもたち

福武教育文化振興財団さんには、2018年からずっとお世話になっています。予算的にもちょうどいい規模で、何か強い



コノユビトマレ・キャンプ

られることもなく、やりたいことを応援して下さることを、とてもありがたく思っています。

私は今、教育委員会の中で、社会教育を中心にしながら、学校教育課の仕事も兼務させていただいています。井原市の「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」を進めています。学校教育にしても、かつての学力偏重を脱して、非認知能力や多様な人間性を育むことをしていかなければ、この先、地域がなくなってしまうかもしれないという思いを切実に感じています。

夢源に来ている中高生を見ていると、最初は保護者の方が「うちの子は無口で、

こういう活動をするタイプじゃないんですけど……」と言っていた子でも、不思議なくらい、変わっていくんです。全国の高校生と交流できるし、将来のロールモデルになる大人たちにも、たくさん会える。子どもたちはよく、「ここに来たら否定されない」と言います。中高生は、学校と家と、せいぜい塾という、限られた人間関係の中で生きています。そうすると、固定的な関係の中で作られた自分の役割のようなものに縛られてしまいがちです。でも、ここに来れば、素の自分で見られる。私たちの活動が、サード・プレイス(家でも学校でもない第3の居場所)になり得ていると感じます。



岡山を音楽で表現し、 世界中に発信したい

山地真美さん
YAMAJI Mami



“遠回り”してピアニストに

私はもともと、ピアニストになろうと思っていたわけではありませんでした。ピアノで食べていくというのは、職業としても選択肢が非常に限られていると思っていたので、趣味でやるほかないと思っていました。それで岡山大学法学部に進み、就職活動もしたのですが、やはりピアノへの思いを捨てられず、卒業後は周囲の反対を押し切って上京し、ピアノの専門学校に編入学しました。朝から晩まで、クラシックピアノの演奏法の勉強に打ち込んでいましたが、ピアノがうまい人はいくらでもいる中で、自分は何で勝てるのだろうかということも、考え始めていました。

そんな時に、モスクワ音楽院に短期留学してレッスンを受ける機会がありました。そこでは、いかに本場ヨーロッパの演奏法を吸収して表現するかを学んだのですが、その一方で、日本人らしい演奏法や日本人としての個性が出せない違和感というものを、強く感じる場でもありました。そこで私は逆のことをしたいなと思ったんです。日本に生まれ育った自分が感じたことを、ピアノを使って、そのまま思いっきり表現したいと。そこで、本格的に作曲活動を始めました。

作曲を始めたら、岡山の曲ばかり出来



プロフィール

山地真美 (やまじまみ)

岡山大学法学部卒業後、ピアニストになるため上京。2010年度春期モスクワ音楽院マスタークラスを受講したことがきっかけで、本格的に作曲活動を始める。尚美ミュージックカレッジ専門学校 室内楽専攻ピアノマスタークラス卒業。全国各地のドローン映像とピアノ音楽を組み合わせた「浮世音」、西日本豪雨復興応援歌「つなごう」など、地域に根差した音楽活動が高く評価されている。おかやまアワードにて特別音楽賞受賞。第1回福武教育文化賞受賞。

てきた。美観地区で風にたなびく柳の葉や、後楽園に放たれた鶴など、自分が見て感動した情景がどんどん曲になっていきました。こうして東京で、岡山をテーマにした曲をコンサートで弾くようになりましたが、当初から、現地の写真や映像を映しながら弾くという演出をしていました。新鮮でおもしろいと評判でしたが、だんだんと、岡山で地元の人と一緒に活動しながら、各地で発信していくの



100人オーケストラ

が本来の姿だと思うようになり、岡山に拠点を移し始めました。

その頃にテレビで取り上げられたのを、たまたま福武教育文化振興財団事務局長が見られたご縁で、助成金のことを教えていただいたり、いろんな方を紹介していただいたりしました。

他の人にはつukれない、 音楽のコミュニティをつくりたい

助成を受け始めた頃から、個人のピアニストとしてどう発信していくかというのとはまた別の、もう一つの軸として、「地域のみなさんと一緒に」ということを考えるようになりました。2017年に旧内山下小学校の体育館で開催した「100人オケ」は、そうした中で企画しました。「ど

んな楽器でも、どんな年齢でも、うまい・下手にかかわらず誰でも参加できる100人オーケストラ」ということで、参加者を一般公募したのですが、そんなことは可能なのかという疑問の声も多く、参加者を集めるのにとても苦労しました。

普通は吹奏楽部などでも、ある程度メンバーのレベルが揃わないと合奏できないのですが、これは最初に決まった楽譜があるのではなく、参加者の楽器習熟度に合わせてすべての人が参加できるよう、私が譜面をつくることができます。これならできると思いました。テーマは「おかやま」。打楽器を鳴らすだけでもいいし、「トッテンカッテン」と歌うだけでも参加できる。楽器に自信がない人でも「これでいいんだ」と思ってもらえることを大事にしていたので、レッスンでは「そこ

出来てないよ」とか「もっと練習してきて」といったことは、言わないようにしていました。

うまくなるためのチームではなく、他の人には絶対につukれない音楽のコミュニティをつくりたいと思っていました。小さな子どもさんからお年寄りまで参加して下さり、「おかやまの音楽」という一つの共通点で、普段は関わり合いのない世代と一緒に舞台をつくり上げることができて、私の自信にもつながりました。私はピアノだけをひたすらやってきましたという、王道のピアニストではありません。高校も普通科に進学して運動部に入り、学生時代もたくさんアルバイトを掛け持ちしてきました。遠回りしてピアニストになった分、経験をたくさん積んできたので、それがいろんな人とコミュニケーションでき、まとめていく時に役立っていると感じています。

新たな一歩を 踏み出すための助成

私の大きな目標は、自分がつくった音楽が、日本中、世界中で流れていて、いろんな人に演奏されて後世につながっていくことです。なので、個人の演奏活動だけでなく、コミュニティをつくり、自分の楽曲に親しんでもらうことをとても大事にしています。

今後は、日本中のいろんな土地のこと

を課題曲にしてオンライン音楽祭を開きたいなと思っています。たとえば1月から3月は「岡山杯」にして、岡山を課題曲にして演奏してもらったものを動画に撮って投稿することで参加できる、その次は「広島杯」というふうに。いろいろな場所を課題曲にすることで、その土地の歴史や文化に興味をもつきっかけにしたい、コロナ禍で発表の場がなくて困っている人でも参加できる形をつくりたいと思っています。

今まで誰もやったことのない、新しいことをやりたいと思った時、いきなり自費でコストをかけて実行するのはなかなか難しいのですが、そういう時に助成という形で応援してもらえることはとてもありがたいです。前例がなくても、成し遂げたい本質の部分を理解していただけて、新たなことに挑戦できる。次の一歩を踏み出したい時に、一番困る部分を応援してくれるのが助成という存在だと思います。





成清仁士さん(左)と青尾謙さん

アンケート調査結果から みえてきたもの

「教育文化活動助成に関するアンケート調査」の監修をお願いした青尾謙さんが調査結果を踏まえながら、当財団の助成金のほか、トヨタ財団の助成金や行政の補助金も活用した経験を持つ成清仁士さんにリアルな声を伺いました。

青尾 アンケートに回答されて、どんなことを感じられましたか。

2010年度に3カ年助成をいただいて活動したのがスタートで、その後いろんな人と繋がりができ、展開がありました。

成清 「倉敷の各時代の復元地図及び歴史遺産案内地図の作成と、その活用」で

2020年の春岡山に戻ってきてライフワークとして再稼働させていますが、振り返

ってみると、そういった立ち上げのきっかけを作ってもらったということを感じました。

青尾 教育文化活動助成は一種の登竜門。鯉が竜になっていく上での大事なステップングストーンでないかと思っています。

成清 まさに滝の手前の池にいた鯉だったなど。博士課程の3年次の学生だったんですが、本当に企画書しかないわけです。企画書の段階で拾い上げていただいて、すごくありがたかったです。そこからまさに滝を登りだしたのかなと思います。

青尾 その3年間、また助成を受けられた後はどういう感じで展開していききましたか。

成清 2年目の秋ごろにトヨタ財団の助成に応募して採択されて、3年目には教育文

化活動助成とトヨタ財団の助成を受けて活動しました。5年目には全国商店街振興組合連合会の活性化事業補助金の紹介を受けて、商店街と連携する形で活動しました。

そこまで5年間、ものすごく展開したと思います。

青尾 活動をやってみて地域の実情を知る、それによって新しい活動を展開していくことはありますか。

成清 最初の1年目は自分できること、2年目3年目と続ける中で、人に協力を求めながら、迷惑をかけながら、活動をひろげていったという感じです。すごく成長をさせてもらいました。

青尾 アンケートの最初の質問は、「助成金を受けた当時と比べて現在の状況はどうなっていますか」でした。もちろんコロナの影響で中止や延期というのも多い

成清仁士 NARIKIYO Hitoshi

ノートルダム清心女子大学 人間生活学部人間生活学科 准教授
1980年岡山県岡山市生まれ。総社高卒。広島大学・大学院で建築史・意匠学を学ぶ。鳥取市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー、鳥取大学地域価値創造研究教育機構准教授などを経て、2020年より現職。2012年よりNPO法人倉敷町家トラスト理事。



のですが、発展させている、同規模または縮小して継続しているというのが約7割。これは僕からすると驚きでした。

成清 そうだろうなという気がしました。僕も何度か応募していて不採択になったこともあります。だからといってやめるということにはならないし、やろうとした活動ができなくなることはあると思いますが、問題意識は持ち続けていると思います。

青尾 「助成を受けた当時の活動の変化と団体の変化」という項目では、規模拡大の基礎作りに役立ったとか、知名度・信頼度が上がったと、非常にポジティブな効果が言われています。非常に積極的に評価していただいているところがあります。

成清 自主的な活動が多いと思うので、外部評価を得たことで「期待されている」

「認められた」ところが「自信」につながっていったのでは。しっかりとした基盤のない状態でスタートすることもあると思うので。僕の場合もそうでしたが、財団の助成を得たことで、がんばってねとか声をかけていただくのが、すごく強い力をいただいた気がします。

青尾 フォローアップについての回答では、「支援があることを知らなかった」という声もありました。

成清 時々財団に行って、近況報告をさせてもらって、方向性を確認できたり、元気をもらったりしたような気がします。が、フォローアップしてもらおうという意識ではなかったです。

青尾 最近はコロナ禍でなかなか集まらないので、オンラインで情報交換会を財団では実施していますが、どう思われますか。

青尾謙 AOO Ken

岡山大学大学院 社会文化科学研究科 准教授 / 公益財団法人助成財団センター 参与

1975年東京都生まれ。民間企業や国際協力NGO（ベトナム）、国際機関（ウガンダ・NY）、トヨタ財団、日本財団を経て、現在は岡山大学でソーシャル・イノベーション分野の研究教育と岡山大学のSDGs推進、地域コミュニティとの連携協力事業も担当している。



成清 すごくいいと思いますね。オンラインの情報交換会は、全然お会いしたことのない方の活動をじっくり聞くよい機会になっています。顔が見えるじゃないですか、それを経た後、以前のような対面で400人参加する発表会、交流会が実施できた際には、それがさらに良きものになるのではと期待をしています。

青尾 こういう長い期間、コミュニケーションが途切れてしまうと、それだけで距離が広がってしまうので、お互いの顔を見ながらつながっているんだという感覚が得られるのはとても大事ですね。

青尾 財団に期待したいことはありますか。

成清 「地域の魅力をつくっている」そういった役割を期待しています。地域に魅力を感じるのって、人に魅力を感じているのだと思います。行ってみたい、住

んでみたい、交流してみたい、そういうのが一つひとつではなくて広がっていくから、岡山県って面白いなというふうになっていくと思います。財団の助成を受けて活動している方は、みなさん元気で、魅力的な人が多いので、学生たちに、接点をもたせてあげられたらと思っています。

青尾 岡山県に来て3年ですが、地域ごとに魅力がある地域だと感じています。例えば足守は、全国的には知名度は低いかもかもしれませんが、すごくすてきな街並みがあったり、歴史的な建物を紹介している見やすいきれいな地図があって、はしっこを見ると、財団の支援を受けましたと書いてあって、なるほどと。そういう地域ごとの、地域とか人の魅力を生き生きと保っていく、向上させていくというのが、この財団のお仕事の積み重ねなんだろうと感じました。

「より効果的な助成事業にするための」 アンケート調査—概要報告

2008年度から2020年度までの市町村別採択件数

当財団事業の柱である助成事業を、更に効果的で地域振興に貢献できるものになるようアンケート調査を実施しました。

本調査は、2008年度から2020年度に助成を受けられた団体・個人の皆様（1327団体）にご案内しました。その後の活動の成果や効果等をはじめ、財団が実施するフォローアップ（成果報告会や情報提供など、様々な非資金的な支援）や財団への評価・ご意見等についてお伺いし、今後の改善へつなげていくことを目的としました。

アンケート調査の回答数は508件、38.3%と高い回答率でした。

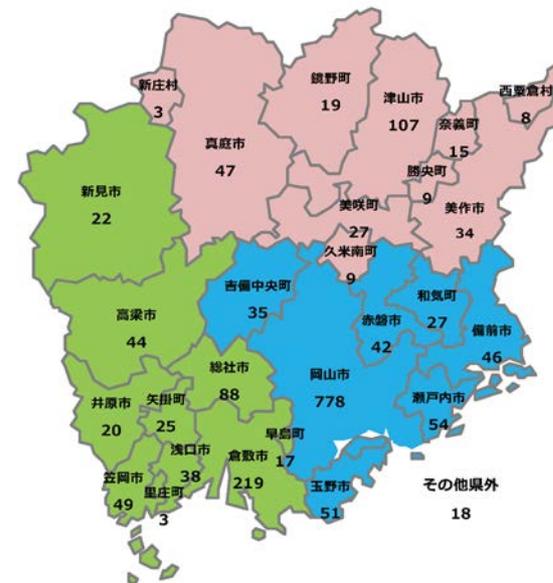
基礎情報

本調査事業の対象となる、各年度における採択件数及びその所在地については以下のとおり。

2008年度から2020年度までの総件数は1854件、総助成額は3億7935万円。平均採択件数は約146件、平均助成額は約20万円となる。

2008年度から2020年度までの年度別助成採択件数と助成金額

	採択件数	助成金額（単位：万円）
2008年度	167	2780
2009年度	148	2790
2010年度	157	3110
2011年度	150	3150
2012年度	158	3095
2013年度	142	2900
2014年度	139	2975
2015年度	129	2870
2016年度	125	2825
2017年度	134	2835
2018年度	127	2805
2019年度	134	2800
2020年度	144	3000
合計	1854	37935



回答者の属性については、以下のとおり。

【送付総数】 1327

【回答数】 508

【回答率】 38.3%

団体区分

1.個人	2.学校関連	3.任意団体	4.法人格あり
27	49	337	51

年度別回答数

2008年度	22	2015年度	26
2009年度	31	2016年度	28
2010年度	28	2017年度	36
2011年度	28	2018年度	35
2012年度	33	2019年度	53
2013年度	34	2020年度	77
2014年度	33		

市町村別回答数

備前エリア		備中エリア		美作エリア	
岡山市	166	倉敷市	57	津山市	36
玉野市	14	笠岡市	12	真庭市	10
備前市	14	井原市	7	美作市	10
瀬戸内市	17	総社市	21	鏡野町	4
赤磐市	14	高梁市	11	勝央町	4
和気町	3	新見市	4	新庄村	1
吉備中央町	6	浅口市	9	奈義町	6
		早島町	6	西粟倉村	6
		里庄町	1	久米南町	4
		矢掛町	8	美咲町	3
その他県外					
10					

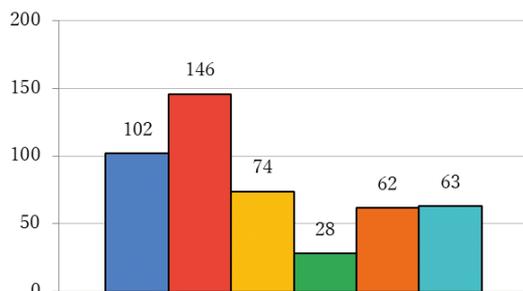
(設問)I. 助成を受けて実施された活動について、2021年6月現在の状況を教えてください。

一半数以上が活動を発展、維持継続

この設問では、助成を受けた活動の現在の状況について尋ねた。

「規模や活動内容を発展させて行っている」、「同規模の活動規模や活動内容で継続して行っている」、「規模や活動内容を縮小して行っている」と回答した団体は322あり、全体の67.8%だった。

1. 規模や活動内容を発展させて行っている	2. 同規模の活動規模や活動内容で継続して行っている	3. 規模や活動内容を縮小して行っている	4. 活動内容は他の団体に引き継いでいる	5. 現在活動は休止している(再開の予定あり)	6. 現在は活動を実施していない(再開の予定なし)
102	146	74	28	62	63



回答者の声

- 「コロナ禍の影響で、活動の停止を余儀なくされている」
- 「再開を検討中にコロナの影響を考慮して中止した」
- 「組織内で制度化され、軌道にのっている」
- 「2020年～2021年にかけて新型コロナウイルス感染予防のため、数回中止しましたが、対策を徹底して行っています。活動内容等の変更はありません」
- 「コロナが収束すれば活動を再開する予定あり」
- 「他市町村に広げることができている」
- 「地域の方々、活動を通じて知り合った団体や個人の皆様と会員全員力を合わせての活動を展開しています」
- 「助成いただいてから少しずつですが活動の地域が広がっています」
- 「会員の高齢化により、活動全体が縮小している」

(設問)II. 助成を受けた当時の変化や反応について教えてください。

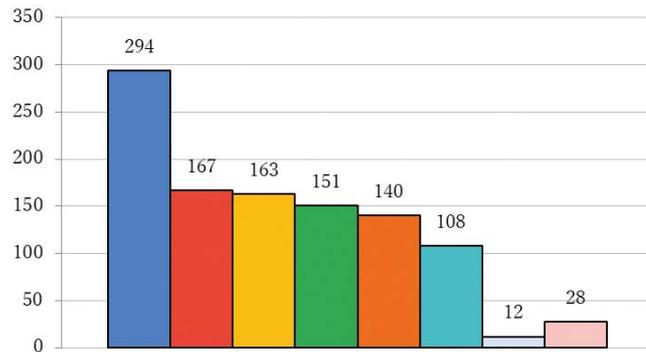
①助成を受けたことで、【活動】には当時どのような変化や反応がありましたか。

(複数回答可)

一活動の規模が拡大

この設問では、団体が取り組む事業のうち助成を受けた活動について当時の変化や反応について尋ねた。「活動の規模拡大の基礎作りに役だった」は最も多く294件回答があり、62.0%だった。

1. 活動の規模拡大の基礎作りに役だった	2. 参加者や地域のニーズが理解・把握できた	3. マスメディア等で紹介された	4. 活動対象者や対象地域が広がった	5. 活動の連携先が増えた	6. 自主財源を得るきっかけになった	7. 影響はなかった	8. その他
294	167	163	151	140	108	12	28



回答者の声

「福武教育文化振興財団から助成を受けている事業ということで他方面から評価され、事業価値が高まった」

「活動内容を広く知っていただくきっかけになった」

「関わった青少年が美術系の進路を選択するなど、地域文化の教育資源の一つにもなった」

「企画の質を高めることができた」

「真備町だけでなく、防災に関する活動を行う団体・組織との連携を図ることができた」

「当時は、テレビニュースでも取り上げられて盛り上がった。地域のボランティアに対する意識も一時的に盛り上がったが、あまり浸透していないように思える」

「地域とのつながりを含め、気運が盛り上がった所でのコロナ禍は痛い。どうやって、再度気運を盛り上げるかが、これからの課題である」

「特別支援学級等で学ぶ子どもと保護者のニーズが把握でき、活動に大いに役立った」

「この活動により大学との連携、中学校との連携そして、市役所の連携が構築できた」

「マスコミ各社にも取り上げられ、活動が大きく広まった」

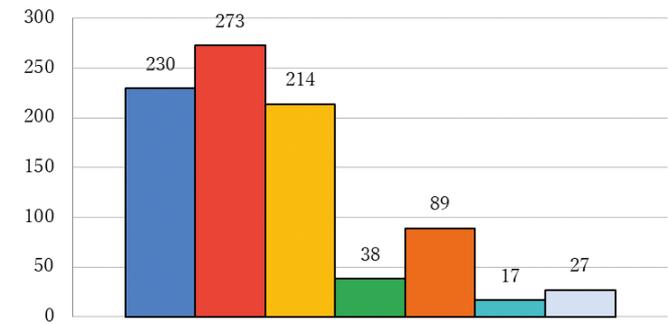
②福武教育文化振興財団から助成を受けたことで、【団体】には当時どのような変化や反応があったか（複数回答可）

一信頼度、知名度の向上につながった

この設問では、助成を受けたことで団体・組織としての当時の変化や反応に

ついて尋ねた。「信頼度の向上に役だった」との回答が最も多く273件あり、57.6%だった。

1. 知名度の向上に役だった	2. 信頼度の向上に役だった	3. 新たな資源の獲得につながった	4. 職員のスキルアップにつながった	5. 法人格の取得につながった	6. 影響はなかった	7. その他
230	273	214	38	89	17	27



回答者の声

「主催するメンバー、団体だけでなく、関係する団体などの理解や協力、参加などにつなげることができた」

「活動の初期でしたので、基礎作りに大変役に立ちました。話し合いの組織作りもできた」

「メンバーの意識が変わった」

「助成金申請のために事業活動の明確すること、企画・予算管理等、法人事務が確立されたことは良かった」

「信頼が増したのは大きい」

「地域の団体や他の団体に、公募助成を受けたことで事業の説明に理解を得やすくなった」

「話題の乏しい中山間周辺地域であり、会を設立する前段階であり、貴財団からの助成決定は、地域で大きな話題となった。地元での協賛金調達に効果があった」

「町との連携がより密になり、また、さまざまな外部との連携や協力により、情報のやりとりをする中で、団体の構成員同士がよりしっかりとつながったり、地域

住民の地域を活性化しようという意欲・意識が高まったりしたように思います」

「活動が充実してきたために入団希望者が増えた」

「狭い地域で活動する団体から、広い地域での活動に対応する団体へと発展する契機となりました」

(設問)III. 福武教育文化振興財団のフォローアップについて教えてください。

①助成金以外の支援（フォローアップ）として、「これまで受けて良かったもの」

(複数回答可)

一参考になった、交流会、成果報告会

「活動成果の発表・公開の機会（成果報告会、成果報告書等）」に関する回答が最も多く266件、59.6%だった。

1. 申請時の相談 (andF相談会等)	2. 助成を受けた後の個別相談	3. 他団体の紹介・マッチング	4. 活動成果の発表・公開の機会 (成果報告会、成果報告書等)	5. 他団体の事例共有・交流の場 (交流会、成果報告会等)
86	48	59	266	195
6. 広報支援 (Facebook、ウェブサイト、FUEKI等)	7. 財団主催のセミナー等 (andF教室、フォーラム等)	8. 財団職員による現場訪問 (イベント・発表会の視察等)	9. 新型コロナウイルス関連 (オンライン相談、エリア別情報交換会等)	10. その他
116	61	59	26	28

回答者の声

「助成金以外の支援はあまり十分に活用できなかった」

「特に支援は受けていない。支援があることを知らなかった」

「自立できるような視点、より事業価値を高めていく視点などいろいろなアドバイスをいただいています」

「成果報告会や交流会で他団体の活動内容について見聞きして、とても参考になった」

「個別にメールで相談をした際、迅速に返答をいただけたのが大変助かった。いつでも相談できる相手がいるという安心感に繋がった」

「成果報告書を読んだ奈義小学校の教員から取り組み内容に関する問い合わせ

があった」

「FUEKIに紹介されていた絵でグラフィックレコーディングというものを初めて知り、本校の昨年度の取り組みを1枚の絵に仕上げてください、PRに利用している」

「近隣の方々とのZOOMでの交流会は大変良かったです。成果報告会は私どもの手本として参加することができました。FUEKIは楽しみにして拝読しています。また、私が苦手なデザイン等参考にすることが多いです」

「andF教室のいくつかに参加。特に2019年に開催された『SDGsの視点』『Society5.0』など知らない内容が多かったので、大変勉強になった」

本調査を振り返っての気づき:岡山の「インフラ」としての財団助成

岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授/助成財団センター 特別参与 青尾 謙

今回、福武教育文化振興財団様（以下、「財団」と略）のお声がけがあり、途中から外部専門家として本調査に関わらせていただきました。財団並びに調査の実施をされた岡山NPOセンター様には大変ご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

本調査は僕にとっても大変貴重な学びの機会となりました。3年前に岡山に来てすぐに、ある方から「財団の助成は地域で活動する人の登竜門だから、ここで助成されて信頼を得るんだよ」と教えていただき、本調査ではあらためてそれが確認されました。また、助成を受けられた方々の多様性や、多くの回答者の方々が、地域で継続して活動を行っておられること、そして都市部以外の地域の方も含め、多くの方が地域の現状について前向きに見ておられることなど、自分が予想していなかったことも知ることができました。

本調査を通じて、財団助成の持つ意味の一端が明らかになったように思います。岡山県内で、誰か（「普通の人」も含め）が新しいことをやりたいと思った時に、最初の入り口として頼れる財団助成が存在していること、更にそこから更に財団と関わる人のネットワークに触れ、成長の機会を得られることの意義は、非常に大きいと言えます。

これは財団が岡山県内の教育文化分野で、それぞれ「海のものとも山のもの

とも」わからない活動に対して、地道に、丁寧に、そして懐深く、助成とフォローアップ支援を続けてこられたことの成果であり、その見識に深く敬意を表したいと思います。多くの助成財団や機関で、「目に見える成果」や「社会課題の解決」といった、外に向けて説明しやすい「結果」を求める傾向が強まる中で、地域の財団として腰を据えた取り組みを続けてこられた結果と言えます。

全国と比べても、岡山にはこうした地域での活動を行う方々、そしてそれを支える地域の財団等の関係者の「エコシステム（生態系）」がしっかりと存在し、機能しており、それがまた地域での日々の活動を支える、人と人とのネットワークになるという循環を生んでいるように思います。その中心の一つが財団であることが、本調査に寄せられた回答から、改めて確認できたと思います。

現在は県内の多くの地域で高齢化が進んでおり、また2020年以降は新型コロナウイルスのために地域での活動にも制約がかかっていますが、新たな担い手も含めた「岡山の地域エコシステム」の更なる発展のため、今後も財団の活動に期待したいと思います。

県内中間支援(岡山NPOセンター)からの提言

特定非営利活動法人岡山NPOセンター
理事・事業部長 高平 亮

福武教育文化振興財団（以下、財団）の創設35周年、誠におめでとうございます。経験や実績では財団の足元にも及びませんが、同じく市民活動の支援に携わる組織として、助成対象者とのよりよいパートナーシップ構築に向けた提言などを述べさせていただきます。

「時代の変化に即した目的設定」

財団や助成事業の変遷を拝見すると、「教育」と「文化」を核としながらも社会の変化に柔軟に対応した目的設定がなされていることがわかります。顕在化した課題・ニーズへの対応に限らず、社会の変化を予測したうえで、革新的あるいは予防的なプログラムの開発を求められる市民活動においては、資金提供者が先見性・柔軟性を有していることは非常に頼もしいことであり、今後も同様の方針を維持していただきたいと思います。

「文化振興活動への継続的な支援」

コロナ禍において「文化は不要不急か」といった議論が一部でなされましたが、文化は、私たちの生活に必要な不可欠なものでありながら、状況により、活動等の優先度・重要度を低く評価されることがあります。そのような社会の傾向とのバランスを保つため、財団にはこれからも地域の文化振興を支える社会基盤として、文化振興の意義を発信し続けるとともに活動を担う市民を支え続けていただくことを期待します。

「事業評価の導入」

今回の調査結果を参照するまでもなく、財団が地域の教育・文化の振興に大きな貢献をされていることは疑いのない事実ですが、今回の調査が2021年時点の助成対象に対する定点的な観測であることや調査実施主体(当法人)の力量不足も相まって、助成対象や地域にもたらされた成果・恩恵などを十分に示すことができたとは言えません。助成事業の成果測定とより効果的な見直し・改善のためには評価が継続的に実施されることが理想的であり、今回の調査結果をふまえてさらに踏み込んだ評価の設計・実施につなげていくことを提案します。

「フォローアップの見直し」

財団のフォローアップに対するアンケート結果を「これまでに受けてよかった(満足度)」と「今後受けてみたい(期待度)」として分類した場合、満足度が低く、期待度が高いメニューは「他団体の紹介・マッチング」となりました。より効果的・効率的にマッチングを実現するためには、情報・人脈・場づくり等が重要になると思われるため、同様の事業を実施しているその他の財団法人や中間支援組織(当法人)などとの日常的な情報交換や協働での場づくりをご検討いただきたいと思います。

「助成財団・支援組織の相互研鑽」

財団は地域の教育・文化振興に携わる市民活動団体にとって身近かつ頼れるパートナーとして認識されており、それは「財団への思い・要望・指摘・財団職員とのエピソードなど」の回答が単純な資金提供への謝意で完結していないことに表れていると思います。そのような財団及び財団職員が蓄積されている情報・経験が市民活動のさらなる発展のために広く共有・活用されることを期待しています。岡山県では幸いにも助成財団、自治体、支援組織による情報交換の機会が設けられているため、この機会を通じて、相互の「助成事業」や「フォローアップ」の研鑽が重ねられていくことを願います。当法人もその一員として財団と共に経験と実績を重ねていけるようさらなる努力を重ねてまいります。

助成金以外の支援(フォローアップ)で活動をサポート

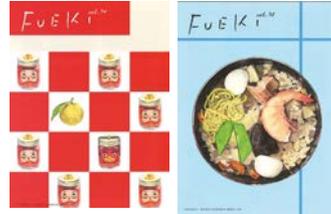
成果報告会及び交流会

ステージとポスターセッションで成果報告。約400名の参加者で会場は賑わいます。その後の交流会では名刺交換が始まり、ネットワークをひろげる機会となっています。



FUEKI

財団の活動を誌面にした機関誌。岡山県内の約2200箇所に配布。助成対象者等の活動チラシを同封することができます。



エリア別オンライン情報交換会

コロナ禍で会えない状況ですが、オンラインで団体の活動をゆっくり聞くことができます。マッチングや情報提供の場面もみられます。



現場訪問

活動現場へ訪問して助成対象者の声を聞いています。実際に足を運ぶことで、活動を深く知ることかできます。



andF教室

「ともに学び、ともに考える」をテーマに「学びの場」として教室を開催しています。聞くだけでなく後半はワークショップで更に学びを深めています。



財団訪問

財団に聞いてみたいこと、教えてほしいことなどに応えます。申請や活動の悩みなどの相談もできます。



資料編

福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞——受賞者一覧

□賞の目的

福武哲彦教育賞は教育の研究とその実践に顕著な業績をあげている個人、又は団体を顕彰すること。谷口澄夫教育奨励賞は、岡山県の教育の向上に著しい貢献が期待される個人、又は団体を奨励することを目的とする。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体。

福武哲彦教育賞

回	年度	受賞者・団体	
1	昭和62 (1987)	荻田昭三	岡山県立高松農業高等学校 校長
		木村岩治	前津山洋学資料館 館長
		倉敷市立多津美中学校	校長 森兼正彦
2	昭和63 (1988)	三島一夫	元倉敷市教育委員会 教育長
		森嘉吉	学校法人金山学園 理事長
		岡山市立旭操小学校	校長 直木正司
3	平成1 (1989)	金重博之	(社)岡山県精神薄弱者育成会 会長
		岡山県立鳥城高等学校	代表 岡田恭雄
		倉敷市立味野中学校	校長 洲脇博
4	平成2 (1990)	橋本進	中国短期大学 理事長
		岡山県立笠岡商業高等学校	校長 高畑喜一
		倉敷市立茶屋町小学校	校長 伊藤忠
5	平成3 (1991)	小林真寿江	新見女子高等学校 校長
		原田宣祐	元岡山市立東山中学校 教諭
		岡山市立平福小学校	校長 三道一正
6	平成4 (1992)	岡山県国際理解教育研究会	代表 熊代剛士
		岡山市立岡輝中学校	校長 大前真寿男
		片山嘉女子	元岡山市教育委員会学事課 嘱託
7	平成5 (1993)	林美知子	元岡山市教育委員会指導課 嘱託
		岡山県教育工学研究協議会	会長 近藤昂
		岡山県立水島工業高等学校	校長 近藤晋一
8	平成6 (1994)	岡山県高等学校芸術文化連盟	会長 國塩輝昭
		三澤和昭	吉備高原学園高等学校 校長
		津山市教育相談センター鶴山塾	塾長 矢野啓二
9	平成7 (1995)	青山静	岡山要約筆記クラブ 会長
		村松勲	就実高等学校 教諭
		井原後月の教育史を語る会実行委員会	実行委員長 森山上志
10	平成8 (1996)	岡山県教育振興会	会長 谷口澄夫
		岡山市立太伯小学校幼稚園PTA	会長 岡崎昌仁
		奥山桂	前岡山市教育委員会 教育長
11	平成9 (1997)	渡辺和子	(学)ノートルダム清心学園 理事長
		岡山県立岡山城東高等学校	校長 大田原啓介
		岡山県立東岡山工業高等学校	校長 清水直道

回	年度	受賞者・団体	
12	平成10 (1998)	古都の子供を育てる会	推進委員長 堀木力
		岡山県立高松農業高等学校	校長 高畑幸彦
		赤枝郁郎	赤枝皮膚科医院 院長
13	平成11 (1999)	学校間連携委員会	委員長 安東達郎
		岡山県臨床心理士会	会長 清板芳子
		就実中学校・高等学校	校長 武内眞吾
14	平成12 (2000)	原田三代治	岡山県山陽高等学校 校長
		岡山県健康の森学園	学園長 竹本博明
		岡山県立岡山東商業高等学校	校長 藤田哲輔
15	平成13 (2001)	岡山県立精研高等学校	校長 芳田泰朗
16	平成14 (2002)	高木浩朗	前井原市教育委員会 教育長
		岡山県立興陽高等学校	校長 前田栞児
17	平成15 (2003)	高旗正人	岡山大学名誉教授
		岡山県立鴨方高等学校	校長 大島俊秋
18	平成16 (2004)	伊澤秀而	倉敷市立短期大学 学長
		佃幸男	岡山県青少年総合相談センター 所長
19	平成17 (2005)	社団法人ガールスカウト日本連盟岡山県支部	支部長 小林比禮子
		岡輝中学校区地域学校協議会	会長 川上洋一
20	平成18 (2006)	濱田栄夫	山陽学園大学 教授
		アクティブライフ井原 まなびめいと	会長 河合俊道
21	平成19 (2007)	佐藤暁	岡山大学教育学部 教授
		岡山県立倉敷中央高等学校	校長 古川英巳
22	平成20 (2008)	柴田一	元就実大学 学長
		岡山県立津山商業高等学校	校長 直原研造
23	平成21 (2009)	太田健一	元山陽学園大学 教授
		竹内昌彦	岡山県立岡山盲学校 講師
24	平成22 (2010)	山本力	岡山大学大学院教育学研究科 教授
		岡山県立久世高等学校	校長 池田芳徳
25	平成23 (2011)	戸村彰孝	元岡山市教育委員会 教育長
26	平成24 (2012)	千葉喬三	学校法人就実学園 理事長
27	平成25 (2013)	佐藤元信	元金光学園中学高等学校 校長
28	平成26 (2014)	佐々木美行	倉敷市立旭丘小学校 教諭
29	平成27 (2015)	こくさいこどもフォーラム岡山 (INTERKIDS)	代表 今西通好
30	平成28 (2016)	学校法人 おかやま希望学園	理事長 黒瀬堅志
31	平成29 (2017)	橋本正巳	くらしき作陽大学子ども教育学部 教授
32	平成30 (2018)	特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド	代表理事 有森裕子

※第1回から第32回までの受賞者数 計69件 役職などは受賞時のもの

谷口澄夫教育奨励賞（平成13年度までは福武教育奨励賞）

回	年度	受賞者・団体
1	平成13 (2001)	久山将弘 岡山市立岡輝中学校 教諭
		藤本貴司 岡山県立岡山城東高等学校 教諭
2	平成14 (2002)	高木弘子 井原市立高等学校 校長
		竹内秀明 岡山市立芥子山小学校 教諭
		辰田芳雄 岡山県立岡山朝日高等学校 教諭
		長瀬眞由美 ベル学園高等学校 教諭
3	平成15 (2003)	山本茂 おかやま山陽高等学校 教諭
		延堂雅弘 岡山市立南輝小学校 教諭
4	平成16 (2004)	津田秀哲 岡山県立瀬戸南高等学校 教頭
		早島町立早島小学校 校長 入谷秀夫
5	平成17 (2005)	安藤きよみ 倉敷市立連島北小学校 教頭
		糸島耕太郎 総社市立常盤小学校 教諭
		山部英之 井原市立井原小学校 教諭
		井上昭三 学校法人おかやま希望学園 学園長
		大島修 岡山県立鴨方高等学校 教諭
6	平成18 (2006)	藤枝茂雄 岡山県教育庁指導課 指導主事
		倉敷市立万寿小学校 校長 須山邦二
		高梁市立高梁中学校 校長 高田茂輝
		米谷正造 川崎医療福祉大学教授・川崎医療福祉大学大学院 教授
		倉田洋子 井原市立西江原小学校 教諭
		矢部清吾 岡山市立高島中学校 教諭
7	平成19 (2007)	井原ジュニア新体操クラブ 代表 井上正
		倉敷市立長尾小学校 校長 筒井律夫
		秋山繁治 学校法人ノートルダム清心学園清心中学校・清心女子高等学校 教諭
		岡野浩美 小田郡矢掛町教育委員会 指導主幹
		末廣聡 岡山県立備前緑陽高等学校 教諭
8	平成20 (2008)	NPO法人 ふれあいサポートちゃていず 代表 湊照代
		ブルー スカイ ブルー NISHIYAMA 代表 赤木保弘
		全円子 岡山商科大学 講師
		保野孝弘 川崎医療福祉大学 教授
		岡山県立矢掛高等学校 校長 仲田輝康
9	平成21 (2009)	倉敷市インクルージョン推進事業全体協議会 代表 石浦洋子
		明誠学院高等学校チャリーディング部 GAIAS 代表 山本浩一
		小野秀明 前矢掛町立矢掛中学校 教諭
		清水久仁子 倉敷市立大高小学校 教諭
		菅井淳 明誠学院高等学校 教諭
		津山市立北陵中学校吹奏楽部 校長 中島章
		特定非営利活動法人 リスタート 代表 林尚彦

回	年度	受賞者・団体
10	平成22 (2010)	床勝信 岡山市立灘崎中学校 主幹教諭
		岡山県立岡山工業高等学校 校長 小林清太郎
		「川柳でつなぐ地域と学校」推進協議会 代表 大家浩三
		美作市立美作中学校吹奏楽部 代表 高田雅夫
11	平成23 (2011)	NPO法人 子ども達の環境を考える「ひこうせん」 代表 赤迫康代
		服部由利香 前岡山市立岡山後楽館中学校 教諭
12	平成24 (2012)	岡山県立岡山操山中学校 校長 廣本勝裕
		総社市立総社西中学校 校長 藤井和郎
13	平成25 (2013)	安藤由貴子 美作市立梶並小学校 非常勤講師
		佐藤雅代 山陽学園大学 教授
14	平成26 (2014)	松尾綾子 倉敷市立味野中学校 教諭
		飯田純子 美咲町立旭小学校 支援地域コーディネーター
15	平成27 (2015)	岡山県産業教育振興会 代表 末長範彦
		特定非営利活動法人 タップ 代表理事 古谷義子
16	平成28 (2016)	岡山県立総社南高等学校 ダンス部 代表 山本清美
		山陽女子高等学校 地歴部 代表 井上貴司
17	平成29 (2017)	板倉真由美 岡山市立第三藤田小学校 教諭
		合唱団こぶ 代表・指揮者 大山敬子
18	平成30 (2018)	ハーモニーネット未来 認定NPO法人子ども劇場笠岡センター 理事長 宇野均恵
		岡山県NIE推進協議会 会長 加賀勝
		岡山市立石井小学校 校長 後閑智美
		NPO法人 だっぴ 代表理事 柏原拓史
		小倉理史 UNOICHI実行委員会 代表
		熊谷愼之輔 岡山大学大学院教育学研究科 教授
		NPO法人 みる・あそぶ・そだつ津山子ども広場 代表理事 森安恵津子
		清板芳子 ノートルダム清心女子大学名誉教授
		特定非営利活動法人 元気ッズ 理事長 谷口香里
		特定非営利活動法人 未来へ 理事長 藤本優

※第1回から第18回までの受賞者数 計66件 役職などは受賞時のもの

福武文化賞・福武文化奨励賞——受賞者一覧

□賞の目的

岡山県の文化の向上に著しく貢献した個人や団体の栄誉を讃えるために福武文化賞を贈り、また、岡山県の文化の向上に著しい貢献が期待される個人や団体を奨励するために福武文化奨励賞を贈り、文化の振興による魅力的で豊かな地域づくりに貢献することを目的とする。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体。

福武文化賞

回	年度	受賞者・団体	
1	平成12 (2000)	高木聖鶴	書家
		小川洋子	小説家
2	平成13 (2001)	山口松太	漆芸家
		株式会社くらしきコンサート	
3	平成14 (2002)	古民家再生工房	
		近藤安个	声楽家
4	平成15 (2003)	森田翠玉	工芸作家
		三沢浩二	詩人
5	平成16 (2004)	臼井洋輔	吉備国際大学教授
		松島巖	ガラス工芸家
6	平成17 (2005)	岩崎淑・岩崎洸	ピアニスト・チェリスト
		坂本明子	詩人
7	平成18 (2006)	森陶岳	備前焼作家
		高原洋一	版画家
8	平成19 (2007)	神崎宣武	民俗学者
		吉田全作	酪農家
9	平成20 (2008)	丹下哲夫	手漉和紙製作者
		NPO法人勝山・町並み委員会	
10	平成21 (2009)	藤原敬介	陶芸作家
		水戸岡鋭治	デザイナー・イラストレーター
11	平成22 (2010)	井上敬子	舞踏家
		原研哉	グラフィックデザイナー

回	年度	受賞者・団体	
12	平成23 (2011)	伊藤謙介	文化振興・京セラ(株)相談役
		小谷眞三	ガラス作家
13	平成24 (2012)	坂手洋二	劇作家・脚本家
		なんば・みちこ	詩人
14	平成25 (2013)	あさのあつこ	児童文学作家・小説家
		佐藤常子	染織作家
15	平成26 (2014)	隠崎隆一	備前焼作家
16	平成27 (2015)	原田マハ	小説家
17	平成28 (2016)	太田三郎	美術家
18	平成29 (2017)	青山融	岡山弁研究者
		高月國光	木工作家
19	平成30 (2018)	能勢伊勢雄	PEPPERLAND 主宰・写真家・美術展企画

※第1回から第19回までの受賞者数 計34件 役職などは受賞時のもの

福武文化奨励賞

回	年度	受賞者・団体	
1	平成12 (2000)	和田海山	木工芸家
		松本和将	ピアニスト
2	平成13 (2001)	観世流藤々会	
		あさのあつこ	児童文学作家
3	平成14 (2002)	田賀屋夙生	狂言師
		山田美那子	脚本作家
		おかやまアートファーム	
4	平成15 (2003)	東敬一	演出家
		岡山フィルハーモニック管弦楽団	
5	平成16 (2004)	岡山古文書を読む会	
		久保田厚子	陶芸作家
		備中たかはし松山踊り実行委員会	
		倉敷アカデミーアンサンブル	

回	年度	受賞者・団体	
6	平成17 (2005)	佐故龍平	金作家
		撫川うちわ保存会「三杉堂」	
		川埜龍三	造形作家
		岡山市ジュニアオーケストラ	
		みゆーじかる劇団 きんちゃい座	
7	平成18 (2006)	郷原漆器生産振興会	
		岡本悦子	舞踊家・就実大学人文科学部助教授
		榎木和敬	テノール歌手
		倉敷管弦楽団	
8	平成19 (2007)	岡山県古武道連盟	
		岡山バッハカンタータ協会	
		伊藤宏恵	オペラ歌手
		小池郁江	フルート奏者
		NPO法人21世紀の真庭塾	
9	平成20 (2008)	高月国光	木工芸作家
		宮尾昌宏	陶芸家
		高見信行	トランペット奏者
		特定非営利活動法人ハート・アート・おかやま	
10	平成21 (2009)	山路みほ	箏曲演奏家
		太田三郎	美術家・グラフィックデザイナー
		竹田喜之助顕彰会	
		特定非営利活動法人若い芽を育てる会	
11	平成22 (2010)	井手康人	日本画家
		内山詠美子	マリンバ奏者
		杉浦慶太	写真家
		山部泰嗣	和太鼓奏者
		唐子踊保存会	
12	平成23 (2011)	椿苑	洋画家
		檜山うめ吉	俗曲師
		白石踊会	
		特定非営利活動法人バンクオブアーツ岡山	

回	年度	受賞者・団体	
13	平成24 (2012)	塩津玉容	漆芸家
		三尾奈緒子	フルート奏者
		山川隆之	編集者・吉備人出版代表
		cine/maniwa	
14	平成25 (2013)	青地大輔	写真家
		大島正幸	家具職人
		木村善明	オペラ歌手
		守屋剛志	ヴァイオリニスト
15	平成26 (2014)	伊勢崎晃一郎	備前焼作家
		森山知己	日本画家
		花柳大日翠	日本舞踊家
		NPO法人倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ	
16	平成27 (2015)	高本敦基	美術家
		中桐望	ピアニスト
		日川茂美	岡山県認定作州絃製作者 / 作州絃保存会会長
		横仙歌舞伎保存会	
17	平成28 (2016)	片山康之	美術家
		岸本和明	奈義町現代美術館長
		平井優子	ダンサー・振付演出家
		特定非営利活動法人倉敷町家トラスト	
18	平成29 (2017)	大月ヒロ子	ミュージアムエデュケーションプランナー
		中村智道	映像作家
		浜田高夫	シネマ・クレール支配人
		林正実	鬼ノ塾塾長・阿曾の鉄師
19	平成30 (2018)	上田恭嗣	ノートルダム清心女子大学 人間生活学部長・教授
		梅村知世	ピアニスト
		野村昌子	バルーンアーティスト

※第1回から第19回までの受賞者数 計71件 役職などは受賞時のもの

福武教育文化賞——受賞者一覧

□賞の目的

岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人や団体を奨励するために福武教育文化賞を贈り、教育文化の振興による魅力的で豊かな人づくり地域づくりに貢献することを目的とします。高い志を持ち、先駆的で地域への波及効果がある取り組みをしている次世代を担う個人・団体を対象に顕彰し、より一層の継続的な地域への貢献を期待します。

□賞の特色

「活動の質的評価」に加えて、「地域振興への貢献度評価」が加算された総合点によることとなります。またその活動が、広く知られていなくても、先駆的で地域への波及効果のある活動に焦点を当て、顕彰をすることがこの賞の特色です。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体も表彰の対象とします。

福武教育文化賞

回	年度	受賞者・団体	
1	令和元 (2019)	浅野泰昌	くらしき作陽大学子ども教育学部 講師
		菅原直樹	俳優、介護福祉士／ 「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰
		山地真美	情景描写ピアニスト／ Benerootミュージックアート事業部責任者
2	令和2 (2020)	川嶋絢	ピアニスト／「宙(SORA)への奏で」
		柴田れいこ	写真家
		備中志事人	代表 藤井剛
3	令和3 (2021)	軸原ヨウスケ	グラフィックデザイナー／ COCHAE 代表・アートディレクター
		竹内佑宜	郷土史家／ 公益社団法人津山市観光協会 顧問
		福田廉之介	ヴァイオリニスト／ 一般社団法人The MOST 理事長
		NPO 法人灯心会 スカイハート灯	代表 藤原恒雄
		たまのスチューデントガイドプログラムチーム	代表 妹尾均

※第1回から第3回までの受賞者数 計11件 役職などは受賞時のもの

助成の歴史——教育文化

助成種別	教育文化活動助成		福武教育文化賞 受賞者フォローアップ 助成		特定助成		その他助成		周年記念事業助成	
	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
助成概要	教育及び文化の視点から地域振興を図る活動による人づくり、地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待し、教育文化に関する有意義な実践活動等を助成し、地域の教育文化振興に貢献する		福武教育文化賞の受賞者に対して、受賞後も継続して質の向上と人づくり・地域づくりの活動を行うことを促すため、受賞後3ヵ年を限度として申請に基づき助成する		教育文化活動支援のうち、公益性が明確で継続的に支援しなければ効果的でないものに対し、①先進的事業助成、②グローバル化事業助成、③瀬戸内文化育成助成の3分類に分けて、助成する		年度途中で申し出のある緊急を要する教育文化活動に対して助成する			
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
R1 (2019)	133	27,700	3	900	20	15,530	1	180	1	10,500
R2 (2020)	144	30,000	5	1,500	19	8,730	22	5,440	1	10,500
R3 (2021)	117	28,000	4	1,200	19	18,228	1	300	-	-
合計	394	85,700	12	3,600	58	42,488	24	5,920	2	21,000

※件数、助成金額は理事会議案書に基づく

(単位:千円)

助成種別	平成の遣唐使助成事業		個性的教育を推進する地区・校助成		英語教育重点地区・校助成		英語教員研修助成	
	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
助成概要	岡山県内の教員、教育OB、大学生からなる教育ボランティアを江西省に派遣し、南昌大学、江西師範大学の学生や教員などの協力を得て、現地の小中学校で岡山県を紹介する国際理解講座などを行い、交流を深めることにより、国際理解及び有効交流の促進を図る		学校及び地域社会の特色や地域の要望を踏まえた個性的で主体的な教育の実現を目指した取り組みに助成することにより、学校及び地域の教育の充実を図る		現在の教育課題の一つである英語教育について「使える英語」教育の実践的な研究を進める重点地区・校を選び、該地区・校の授業の改善を支援し、その成果を県内外の教育関係者に公開・普及することにより、英語教育の改善に資する		中学校・高等学校の英語教員及び小学校で英語の指導を担当する教員に対してコミュニケーション能力の向上を図る目的で平成12年度より開始。研修はベルリッツ岡山ランゲージセンターで行った	
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
S62(1987)								
S63(1988)								
H1(1989)								
H2(1990)								
H3(1991)								
H4(1992)								
H5(1993)								
H6(1994)								
H7(1995)								
H8(1996)								
H9(1997)								
H10(1998)								
H11(1999)								
H12(2000)							20	10,090
H13(2001)							20	9,990
H14(2002)							20	10,000
H15(2003)								
H16(2004)								
H17(2005)			4	12,000	4	12,000		
H18(2006)	1	500	6	18,000	6	18,000		
H19(2007)			7	19,000	7	20,500		
H20(2008)			9	21,000				
H21(2009)			5	9,000				
H22(2010)			3	5,000				
H23(2011)								
H24(2012)								
H25(2013)								
H26(2014)								
H27(2015)								
H28(2016)								
H29(2017)								
H30(2018)								
合計	1	500	34	84,000	17	50,500	60	30,080

英語研修助成	小学校特定英語研修助成		日中青年交流事業		その他助成		合計金額(千円)	
	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額		
小学校教員の英会話能力を向上させるために集中的な研修を行う目的で市町村教育委員会に委託する方式と変更し、岡山県情報ハイウェイのブロードバンドを活用した双方向テレビ会議システムで岡山市のベルリッツ岡山ランゲージセンターから送信し、それを遠隔の地域で視聴し受講する方式としている	小学校英語教科化にむけて、市町村教育委員会傘下の教育研究団体等が実施する小学生および小学校教員を対象とした、英会話語学レッスンを中心とした研修に対して、必要な経費の1/2を助成する	日本と中国の高校生が相互に訪問交流し、英語または中国語で模擬授業に参加したり互いの生き方について語り合ったりすることにより、相互理解と友好を深め、自己の生き方を深く考える機会にする。あわせて、東アジアの平和構築の一助にする	年度途中で緊急を要する教育活動に対して助成する	件数	助成総額	件数	助成総額	
								5,000
								7,257
								8,750
								8,050
								8,350
								9,350
								8,100
								8,140
								7,830
								10,920
								7,865
								11,223
								13,540
								34,790
								40,090
								39,700
2	2,300							28,150
4	4,690							22,900
4	4,860			1	5,310			56,370
4	4,840			1	6,340	3	2,800	78,480
4	4,874			1	6,584	1	500	80,070
4	5,060			1	6,970	1	300	69,538
4	5,120					4	700	49,040
4	5,200					10	1,950	48,850
						4	750	35,250
						5	1,500	32,000
				1	540	4	1,050	28,861
				2	850	7	1,600	29,426
				2	1,000	6	1,200	27,270
	5	1,143	2	1,000	6	1,300	26,833	
	6	2,062	1	700	5	1,200	27,632	
			1	900	7	1,920	29,735	
30	36,944	11	3,205	13	30,194	63	16,770	899,360

助成の歴史——文化

助成種別	文化活動助成		指定文化財保全助成		郷土芸能界発表助成		瀬戸内圏文化振興助成		特定文化助成	
	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
助成概要	【公募型】岡山県内で行われる、地域の活性化に貢献することを目的とした文化活動に助成する		国、県等が指定した文化財を保全するための費用を助成する		岡山県郷土芸能振興会が行う「郷土芸能フェスティバル」に助成する		広く瀬戸内圏内の伝統文化を発掘するとともに、当該の自然・歴史・風土・伝統を踏まえた文化の創造・発信する活動を支援するための事業に助成する		地域の文化振興に特に有益と認められる記念的な文化事業に対して助成する(H15年度までの名称は特定文化事業助成)	
H9(1997)	30	5,300								
H10(1998)	49	8,000								
H11(1999)	50	8,100	3	1,500						
H12(2000)	71	14,000	4	3,000	1	2,000			2	4,000
H13(2001)	74	17,880	4	3,000	1	3,000			3	4,500
H14(2002)	64	11,450	2	3,000	1	3,000			1	5,000
H15(2003)	49	10,350	3	1,900	1	1,800			4	4,600
H16(2004)	70	12,950	4	3,000	1	1,000			9	8,000
H17(2005)	64	12,000	3	3,000	1	1,800	1	10,000	11	7,200
H18(2006)	75	14,450	2	3,000	1	1,850	2	13,000	9	12,500
H19(2007)	81	14,850	3	2,880	1	1,500			11	11,420
H20(2008)	97	15,900	1	1,200					9	19,330
H21(2009)	93	16,750	3	1,300					8	14,800
H22(2010)	101	19,400	2	700					9	16,400
H23(2011)	94	19,500	1	700					5	8,300
H24(2012)	100	18,950	3	1,000					7	8,300
H25(2013)	84	18,000	2	1,000					10	7,750
H26(2014)	83	17,750							9	7,000
H27(2015)	86	18,000							8	7,705
H28(2016)	67	15,600							5	8,500
H29(2017)	76	16,350							6	8,200
H30(2018)	64	14,550							7	6,020
合計	1,622	320,080	40	30,180	8	15,950	3	23,000	133	169,525

(単位:千円)

伝統文化振興事業助成		国民文化祭開催関連事業助成		国吉康雄特別展への鑑賞助成		瀬戸内文化育成助成		その他助成		合計金額(千円)	
件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額		
備前陶芸の研究と普及、吉備楽の復興と普及、伝統工芸技術の保全と振興		岡山県文化連盟に係る地域の文化力向上事業へ助成する		岡山市内の小・中学生等が国吉康雄特別・を授業・行事として鑑賞するために必要な経費を助成する		瀬戸内文化の育成、創出のために必要なプロジェクトに対して助成する		年度途中で緊急を要する文化事業に対して助成する		5,300	
										8,000	
										9,600	
3	3,000									26,000	
3	3,000									31,380	
2	2,000									24,450	
								3	4,500	23,150	
								2	5,000	29,950	
								4	28,220	62,220	
		1	5,200	2	530			7	2,200	52,730	
		1	5,200					11	5,510	41,360	
								17	5,440	41,870	
						1	1,000	13	4,600	38,450	
							5	5,700	13	3,800	46,000
							3	3,100	8	2,900	34,500
							9	4,500	14	2,830	35,580
							10	3,300	20	4,000	34,050
							3	1,200	16	3,750	29,700
							8	3,700	14	3,050	32,455
							6	3,200	19	4,130	31,430
							9	3,600	19	3,450	31,600
							1	1,200	13	2,400	24,170
8	8,000	2	10,400	2	530	55	30,500	193	85,780	693,945	

オーストラリア・プレ体験留学

岡山県内の高校生等で、卒業後オーストラリアの公立キャリアカレッジTAFE(Technical and Further Education)への留学を志す者を対象に、TAFEならびにシドニー市内の大学見学やTAFE付属の英語学校での語学学習の機会(プレ体験留学)を提供し、留学意欲を高め海外進学の効果的な準備を行うことを目的とする。

回	年度	実施月日	研修先	参加人数	備考
1	19年度 (2007)	10月20日～10月27日	シドニー	25	海外教育事情調査としてTAFEを視察
2	20年度 (2008)	8月2日～8月9日	シドニー	25	オーストラリア・プレ体験留学開始
		10月18日～10月25日	シドニー	22	海外教育事情調査としてTAFEを視察
		3月21日～3月28日	シドニー・ブリスベン	21	
3	21年度 (2009)	—	—	0	新型インフルエンザ流行のため未実施
4	22年度 (2010)	8月8日～8月16日	メルボルン・シドニー	42	
5	23年度 (2011)	8月15日～8月21日	シドニー	33	
6	24年度 (2012)	8月12日～8月18日	シドニー	32	
7	25年度 (2013)	8月11日～8月17日	シドニー	24	
8	26年度 (2014)	8月10日～8月16日	シドニー	24	
9	27年度 (2015)	8月2日～8月8日	シドニー	19	
10	28年度 (2016)	7月31日～8月6日	シドニー	22	

講演会・フォーラムの記録

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
	昭和63 (1988)	国際化に対応している学校は基調講演「国際化と教育」	江淵一公	広島大学教授	8月25日	岡山東急ホテル
	平成1 (1989)	国際理解教育を学校教育の中でどのようにすすめていくか 基調講演「新学習指導要領と国際理解教育について」	中島章夫	未来教育研究所所長	11月11日	まきび会館
1	平成2 (1990)	場に挑み、気を描く	田村能里子	画家	12月1日	福武書店本社
2	平成3 (1991)	現代青少年とこれからの学校教育	片岡徳夫	広島大学教育学部教授	5月16日	岡山プラザホテル
3	平成4 (1992)	教育の国際化	黒羽亮一	前筑波大学教授	7月4日	まきび会館
4	平成5 (1993)	人を軸とした福武書店の経営哲学	長尾俊男	(株)福武書店社長室長	5月29日	レストラン西川
5	平成6 (1994)	環境教育は足元から—生物世界の掬—	宮脇昭	国際生態学センター研究所長	5月22日	岡山プラザホテル
6	平成8 (1996)	戦後の教育改革の問題点—「教育県岡山」に寄せて—	谷口澄夫	倉敷芸術科学大学学長	3月2日	岡山東急ホテル
7	平成9 (1997)	地域づくりと文化	目瀬守男	岡山大学農学部教授	3月15日	岡山プラザホテル
8	平成10 (1998)	21世紀の生涯学習とまちづくり	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策部教授	2月25日	岡山プラザホテル
9	平成10 (1998)	21世紀の新しい余暇を考える	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策部教授	8月5日	岡山県生涯学習センター
10	平成11 (1999)	21世紀の地域文化を創造する	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策部教授	2月22日	岡山プラザホテル
11	平成11 (1999)	我が国が受け入れた中国文化	梅原郁	就実女子大学教授	8月10日	岡山プラザホテル
12	平成12 (2000)	シルクロードと楼蘭探検	長澤和俊	就実女子大学教授	1月19日	岡山プラザホテル
13	平成12 (2000)	新しいシルクロードの探検—熱砂の大海道を行く—	長澤和俊	就実女子大学客員教授	10月27日	岡山プラザホテル
14	平成13 (2001)	新アメリカ教育事情—学校教育に見る人間形成と地域・学校の連携—	青木多寿子	岡山大学教育学部助教授	2月24日	岡山プラザホテル
15	平成13 (2001)	日米のはざまに生きた画家・国吉 康雄	猿谷要	東京女子大学名誉教授	10月29日	ベネッセコーポレーション本社
16	平成14 (2002)	21世紀の教育を考える	柴田一	就実女子大学学長	2月16日	ベネッセコーポレーション本社
17	平成14 (2002)	これからの家庭教育—人間の絆を育てる—	佐々木正美	川崎医療福祉大学教授	11月5日	三木記念ホール
18	平成15 (2003)	文化を大切に社会をめざして	大西珠枝	岡山県副知事	1月25日	ベネッセコーポレーション本社
19	平成15 (2003)	「教師が変われば子どもが変わる」ということ	高旗正人	岡山大学名誉教授	11月29日	ピュアリティまきび

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト	開催日	会場
20	平成16 (2004)	日本再生への提言「岡山文化の展開原理」	白井洋輔 吉備国際大学社会学部教授	1月22日	ベネッセコーポレーション本社
21	平成16 (2004)	コミュニケーション能力の育成ー英語教育と国際理解教育の接点を求めてー	松畑熙一 岡山大学副学長	11月27日	ビュアリティまきび
22	平成17 (2005)	東アジアから見た総社の鬼ノ城	葛原克人 ノートルダム清心女子大学教授	1月27日	岡山国際ホテル
23	平成17 (2005)	生きる力と学力形成ー教育の復権を求めてー	森川直 岡山大学 教育学部長	11月19日	ビュアリティまきび
24	平成17 (2005)	みのりある教育に向けてー学校と地域で「確かな学力」を育てるー	市川伸一 東京大学大学院 教授・文学博士	12月26日	ホテルグランヴィア岡山
25	平成18 (2006)	芸術創造の心について	蛭田二郎 日本芸術院会員 岡山大学名誉教授	1月24日	岡山プラザホテル
26	平成18 (2006)	今何故学力・人間力の育成が求められているのかー岡山県での取り組みー	市川伸一 東京大学大学院 教授・文学博士	8月27日	岡山プラザホテル
27	平成18 (2006)	現代教育と日本の教育	モハマッド・ライース 株式会社林原 専務取締役	11月4日	ビュアリティまきび
28	平成18 (2006)	教育・文化が果たす役割と未来	村上龍 作家	11月30日	ベネッセコーポレーション本社
29	平成19 (2007)	「岡山県の友人たち」	菅原文太 俳優	11月10日	岡山コンベンションセンター
30	平成21 (2009)	みんなが参加し考える国際シンポジウム瀬戸内海「未来から見た風景」		3月14日	山陽新聞さん太ホール
		基調講演「瞑想の海」	中西進 奈良県立万葉文化館長		
		基調講演「地中海・海洋都市の歴史」	ジュセッペ・ガールガーノ 前アマルフィ歴史文化センター所長		
		基調講演「南イタリアの歴史を活かした街づくり」	陣内秀信 法政大学 教授		
		基調講演「地域から世界へ発信 瀬戸内国際芸術祭」	福武總一郎 直島福武美術館財団理事長		
コーディネーター	千葉喬三 岡山大学長				
31	平成22 (2010)	瀬戸内海を希望の海に～芸術祭の思想と期待するもの～	北川フラム 瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター	3月17日	山陽新聞さん太ホール
32	平成22 (2010)	瀬戸内国際芸術祭2010 アートをめぐる・連続シンポジウム第1回「美術とキュレーション、その仕事」	妹島和世 建築家	7月4日	岡山国際交流センター
			長谷川祐子 東京都現代美術館チーフキュレーター		
			柳幸典 アーティスト		
北川フラム 瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター					
33	平成24 (2012)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.1 ー地域は「文化」を求めているかー 基調講演「劇場にできること」 トークセッション:暮らしているからこそできる、まちづくり	中島諒人 鳥の劇場 芸術監督	1月9日	ルネスホール
			大森誠一 NPO 法人アートファーム 代表理事		
			山川隆之 吉備人出版 代表		

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト	開催日	会場
34	平成24 (2012)	「Setouchi Triennale ー瀬戸内海を希望の海にー」	北川フラム 瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター	10月21日	ターミナルスクエア
35	平成25 (2013)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.2 ー生活と文化、そして地域の未来ー トークセッション:暮らしているからこそ見える、可能性	杉浦慶太 写真作家	3月2日	ルネスホール
			山崎樹一郎 cine/maniwa 代表		
			井筒耕平 美作市地域おこし協力隊		
36	平成26 (2014)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.3 ー地域を紡ぐ、モノづくりー トークセッション:モノづくりと地域づくり	吉田全作 チーズ職人・酪農家	1月13日	ルネスホール
			加納容子 染織作家		
			大島正幸 家具職人		
37	平成27 (2015)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.4 ー地域の明日のつくりかたー 基調講演「地域でチャレンジをプロデュースする～西粟倉村・森の学校の挑戦～」 トークセッション:地域の明日をつくる、プロデューサー	牧大介 株式会社西粟倉・森の学校 代表取締役	1月12日	Junko Fukutake Hall
			河上直美 NPO 法人タブララサ理事		
			浅井克俊 瀬戸内市地域おこし協力隊		
			森美樹 うのづくり実行委員会委員長 / ガラス作家		
			山川隆之 (コーディネーター)		
38	平成28 (2016)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.5 ー地域資源をリノベーションー 基調講演「ルネス10年の歩み」 トークセッション:地域の明日をつくる、プロデューサー	黒瀬仁志 特定非営利活動法人バンクオブアーツ岡山特別顧問	1月11日	Junko Fukutake Hall
			大月ヒロ子 IDEA R LAB 代表 / ミュージアム・エデュケーション・プランナー		
			片山康之 一般社団法人クリエーターズラウンジ / 美術家		
			高本敦基 岡野屋旅館プロジェクト / 美術家		
			山川隆之 (コーディネーター)		
39	平成29 (2017)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.6 ー地域にこそ在る最先端ー プレゼンテーション「文化と地方の力で日本再生を」「課題の現場から文化芸術立国を提唱する」「価値創造の場としての劇場運営」 トークセッション:地域にこそ在る最先端	近藤誠一 元文化庁長官	1月14日	Junko Fukutake Hall
			平田オリザ 劇作家 / 演出家		
			中島諒人 演出家 / 鳥の劇場芸術監督		

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト	開催日	会場
40	平成30 (2018)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.7 ―地域からの教育再生― 基調講演「これからの教育に求められること―教育と地方自治―」氏 トークセッション:地域からの教育再生	片山善博 早稲田大学公共経営大学院 教授	1月13日	Junko Fukutake Hall
			柏原拓史 NPO 法人だっぴ 代表		
			藤井裕也 特定非営利活動法人山村エンタープライズ 代表		
			原田謙介 特定非営利活動法人 Youth Create/岡山大学非常勤講師		
41	令和元 (2019)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.8 ―「災害」と「文化」のいま、むかし、これから― プレゼンテーション「+クリエイティブでつくる防災教育の新しいカタチ」[「災害―文化に何ができるのか」][「被害状況の報告と市民の動き」] トークセッション:「災害」と「文化」のいま、むかし、これから	永田宏和 NPO 法人プラス・アーツ 理事長	1月19日	Junko Fukutake Hall
			大澤寅雄 ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト		
			石原達也 NPO 法人岡山NPOセンター 代表理事		
			藻谷浩介 日本総合研究所 主席研究員		
42	令和2 (2020)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.9 ―地域資源の地消地産を文化に― 基調講演「交流を定住につなげる地消地産」 トークセッション:岡山にできて東京にできないこと	青山雅史 引両紋 代表取締役	7月25日	オンラインフォーラム (Zoomウェビナー)
			川崎好美 岡山県立倉敷商業高等学校 教諭		
			和田優輝 和田デザイン事務所 代表取締役		
			石田篤史 (コーディネーター) 公益財団法人みんなで作る財団おかやま 専務理事		
			藻谷浩介 日本総合研究所 主席研究員		

※昭和63年は「教育の国際化実践セミナー」、平成元年は「国際理解教育実践セミナー」として開催
 ※平成2年度から「教育・文化講演会」を開始

andF 教室の記録

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト	開催日	会場
1	平成29 (2017)	みんなで取り組む地域連携―岡山のシチズンシップ教育を考える	川中大輔 龍谷大学社会学部現代福祉学科講師/シチズンシップ共育企画代表	2月10日	岡山市立岡山後楽館高校
2		これからのアントレプレナーシップ教育―岡山で明日から使える起業家教育	大野圭司 株式会社ジブノオト代表取締役	2月18日	SGSG
3	平成30 (2018)	あなたの活動伝わってる? 「伝える」「伝わる」を考える―デザイン×Web×編集 SNS時代の広報術	佐藤豪人 デザインストラテジスト/アートディレクター/デザイナー、HIDETO SATO DESIGN 代表	6月24日	岡山県立図書館
4			三宅真人 WEBデザイナー/プログラマー、トライマンデザイン代表		
			山川隆之 編集者、吉備人出版代表		
5	地域で活動を続けるヒケツを探ろう!―あなたの思いを地域につなげる	石原達也 岡山NPOセンター副代表理事/みんなの集落研究所代表執行役	12月8日	玉野市産業振興ビル	
6	令和元 (2019)	これからのアントレプレナーシップ教育―なぜ田舎は過疎に? 起業家マインドからのアプローチ	大野圭司 株式会社ジブノオト代表取締役	10月28日	岡山県立和気開谷高校
7		SDGsの視点から、自分たちの活動をみてみよう―市民活動とSDGs	青尾謙 岡山大学 副理事/大学院講師 公益財団法人助成財団センター参	7月8日	ベネッセコーポレーション 広瀬町 (会議室)
8	令和2 (2020)	Society 5.0時代、何かわかる? 何が必要?―学びがわかる、働き方がわかる	浦崎太郎 大正大学 地域構想研究所 教授 (教育による地域創生チーム)	9月5日	ベネッセコーポレーション 広瀬町 (会議室)
9		助成金の不採択と採択の差ってなんだろう?―助成金がどういふものかを知ることから	山田泰久 一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事	11月30日	岡山県立図書館 (サークル活動室2)
10	令和2 (2020)	助成金の基本の「き」を学ぶ―申請前に知っておきたい、やっておきたい準備	山田泰久 一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事	10月7日	Zoomによるオンライン開催
11		グラフィックレコーディングの基本の「き」を学ぶ―明日からつかえるコツをつかむ	北浦菜緒 カンコーマボネクト(株) 所属/教育コーディネータ	11月28日	Zoomによるオンライン開催
12	令和3 (2021)	動画づくりの基本の「き」を学ぶ―知的財産って知っていますか?	源文彰 岡山科学技術専門学校 学生課長兼映像音響学科長	5月8日	岡山科学技術専門学校
13		活動資金の基本の「き」を学ぶ―活動を継続させるためには?	高田佳奈 公益社団法人岡山県文化連盟 主任/認定ファシリテーター	7月25日	Zoomによるオンライン開催
14		RESASの基本の「き」を学ぶ―ビクデータを活用してみませんか?	川崎好美 岡山県立倉敷商業高等学校 教諭 (教科:商業)	10月9日	Zoomによるオンライン開催
15	令和3 (2021)	マインドマップの基本の「き」を学ぶ―「考える」ツールを手に入れませんか?	坂ノ上博史 一般社団法人 高梁川流域学校 代表理事	1月15日	Zoomによるオンライン開催
16		地域で活動する企業家―地域資源を活かす企業家	大野圭司 株式会社ジブノオト代表取締役	2月18日	SGSG

福武教育文化叢書の記録

年度	著書名	著者	仕様	発刊日	発行	内容
1 平成19 (2007)	犬島ものがたり —アート島の島 の昨日・今日・明日	在本桂子	A5判 186 ペ ージ	12月31日	吉備人 出 版	瀬戸内に浮かぶ周囲4キロの犬島。岡山市で唯一人が住む島は、かつては石の島として知られ、大阪城をはじめ日本中にその巨石が運び出された。現代では、数多くの映画のロケが行われ、舞台芸術の舞台ともなり、今、アートの島として生まれ変わろうとしている。豊かな自然に恵まれた犬島に生まれ、この島をこよなく愛する著者が、島の昨日・今日そして未来へ案内する。
2 平成21 (2009)	音楽さえあれば —ピアノとチェロ で世界を巡る	岩崎 淑 岩崎 洸	四六判 206 ペ ージ	3月31日	吉備人 出 版	音楽を愛する両親のもとで生まれた岩崎淑と岩崎洸。空腹感と競争の恐怖のなかでも音楽を忘れることなく育った二人は、世界的な活躍をみせる音楽家に成長。音楽にふれた幼いころ、アメリカでの修行時代、一流の演奏家たちとの共演、そして後進の指導など、全編音楽への愛情にちりばめられています。
3 平成22 (2010)	のれん越しに 笑顔がのぞく —勝山—暮らし から始まるまちづ くり	NPO 勝山 町並み委 員会・編	A5判 129 ペ ージ	3月31日	吉備人 出 版	町並みを飾るのれん、町をあげてのお雛まつり、故郷を離れている若者が年に一度はこのために帰ってくるという秋の勝山まつり……。 自分たちの暮らしを大事にし、ここで豊かに生きること、楽しく生きることが主眼とした、まちづくりとはいったい何なのだろう。四半世紀近くにわたってまちづくりを担い、楽しみながら先頭を走ってきた人たちの話を基に、「美しいまちなみ大賞」(国土交通省・2009)を受賞した岡山・勝山のまちづくりの秘密を探る。

海の劇場の記録

◎教育支援で培った学ぶ力と文化支援で育んだ創る力を地域の未来づくりに役立てるために、NPO法人アートファームとの共催により次の2事業を実施。

□教育普及事業（学校でひらく舞台芸術教室）

アーティストを学校に派遣して子どもたちの創造性と表現力を高める事業

年度	対象校	講師
平成23 (2011)	岡山市角山小学校	角ひろみ(劇作家)
	玉野市立宇野中学校	MAKI(藤原麻紀・コード“M”プロデューサー)
	岡山県立西大寺高等学校・ダンス部	山下残(振付家・演出家)
平成24 (2012)	岡山県立総社高等学校	大岡淳(劇作家・演出家)
	岡山市角山小学校	角ひろみ(劇作家)
平成25 (2013)	岡山市立竹枝小学校	北村茂美(舞踊家・振付家)
	岡山市立朝日小学校	須原由光&ズンチャチャメンバー
平成26 (2014)	岡山市立竹枝小学校	小野寺修二(演出家・カンパニー・デラシネラ主宰)
	岡山市立朝日小学校	小野寺修二(演出家・カンパニー・デラシネラ主宰)
平成27 (2015)	岡山市立朝日小学校	北村茂美(舞踊家・振付家)
	岡山市立馬屋下小学校	大岡淳(演出家・劇作家)
平成28 (2016)	岡山市立朝日小学校	中島諒人(演出家・鳥の劇場芸術監督)
	岡山市立小串小学校	白神ももこ(舞踊家・演出家・振付家、モモンガ・コンプレックス主宰)
平成29 (2017)	岡山市立朝日小学校	中島諒人(演出家、鳥の劇場芸術監督)、齊藤頼陽(鳥の劇場俳優)、村上里美(鳥の劇場俳優)
	岡山市立小串小学校	白神ももこ(舞踊家・演出家・振付家、モモンガ・コンプレックス主宰)、北村めい(アシスタント・四国学院大学4年)
平成30 (2018)	岡山市立朝日小学校	中島諒人(演出家、鳥の劇場芸術監督)、齊藤頼陽(鳥の劇場俳優)、村上里美(鳥の劇場俳優)
	岡山市立小串小学校	平井優子(舞踊家・振付家、M.A.P. 主宰)

□創造発信事業(演劇・ダンス等の公演)

岡山(主に犬島)の地域資源と舞台芸術をつなぐ事業

年度	公演名		公演日	公演場所
平成23 (2011)	維新派「風景画」犬島公演	構成・演出 = 松本雄吉	9月23日・24日・25日	犬島
	移動演劇 宮本常一への旅 地球4周分の歌	演出 = 村川拓也	10月9日・10日	犬島
平成24 (2012)	犬島ダンス掌編集「たまゆら」	舞踊 = 湯浅永麻、ミゲル・オリベイラ、柳本雅寛、楠田健造	7月28日・29日	犬島
	新作野外劇「内海のクジラ」	作・演出 = 坂手洋二・燐光群	9月22日・23日	犬島
	日本初演「天使バビロンに来たる」	演出 = 中島諒人・鳥の劇場	11月3日・4日	犬島・犬島精錬所美術館
平成26 (2014)	悲劇と廃校の美しい関係「ロミオとジュリエット」公演	演出 = 小野寺修二	10月4日・5日	旧内山下小学校体育館

※23・24年度は創立25周年記念事業として開催

財団年表

年度	財団の主な出来事	その他、主な出来事
昭和61年 (1986)	8月29日 財団法人福武教育振興財団設立 初代理事長:谷口澄夫 事務所を岡山市高柳東町10番1号に置く 10月15日 第1回理事・評議員会開催。設立披露パーティ	
昭和62年 (1987)	福武哲彦教育賞を制定	
平成2年 (1990)	事務所を岡山市南方3丁目7番17号に移転 教育・文化講演会開始	
平成7年 (1995)		(株)福武書店、(株)ベネッセコーポレーションに社名変更
平成8年 (1996)	7月8日 財団法人福武文化振興財団設立発起人会 8月23日 財団法人福武文化振興財団設立 初代理事長:谷口澄夫 事務所を岡山市南方3丁目7番17号に置く	
平成10年 (1998)	機関誌「不易」創刊	
平成12年 (2000)	福武文化賞・福武文化奨励賞を制定	第1回大地の芸術祭
平成13年 (2001)	福武教育奨励賞を制定 1月15日 谷口澄夫理事長 急逝(87歳) 福武総一郎が理事長に就任	
平成14年 (2002)	福武教育奨励賞を谷口澄夫教育奨励賞に名称変更	
平成15年 (2003)		第2回大地の芸術祭
平成16年 (2004)		財団法人 直島福武美術館財団設立 地中美術館開館
平成18年 (2006)	教育財団設立20周年記念・文化財団設立10周年 記念講演会開催、記念誌発刊	第3回大地の芸術祭 岡山県立美術館特別展「国吉康雄展」開催
平成19年 (2007)	教育財団と文化財団が統合し「福武教育文化振興財団」になる 財団ロゴ完成 福武教育文化叢書「犬島ものがたり」発刊	財団法人 文化・芸術による福武地域振興財団設立
平成20年 (2008)	福武教育文化叢書「音楽さえあれば」発刊	犬島アートプロジェクト「精錬所」開館
平成21年 (2009)	第4回大地の芸術祭視察 福武教育文化叢書「のれん越しに笑顔がのぞく」発刊	第4回大地の芸術祭
平成22年 (2010)	「瀬戸内国際芸術祭」実行委員会 維新派「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」犬島公演 東日本大震災に係る義援金寄託(山陽新聞)	瀬戸内国際芸術祭2010 李禹煥美術館開館 犬島「家プロジェクト」開館 豊島美術館開館 第25回国民文化祭・おかやま2010

年度	財団の主な出来事	その他、主な出来事
平成23年 (2011)	財団設立25周年記念事業「犬島 海の劇場」事業開始 フォーラム「ここに生きる、ここで創る」開始	岡山県立美術館特別陳列「福武コレクション」による国吉康雄展」開催
平成24年 (2012)	4月1日 公益財団法人に認定 「公益財団法人 福武教育文化振興財団」に移行 「瀬戸内国際芸術祭」岡山県内情報交換会等開催	福武学術文化振興財団、直島福武美術館財団、文化・芸術による福武地域振興財団の3財団ともに公益財団法人に認定後「公益財団法人 福武財団」に統合
平成25年 (2013)	瀬戸内国際芸術祭2013参加機運の醸成に取り組む	瀬戸内国際芸術祭2013 Junko Fukutake Hall(岡山大学鹿田キャンパス内)オープン
平成26年 (2014)	財団公式web全面リニューアル	Junko Fukutake Terrace(岡山大学津島キャンパス内)オープン
平成27年 (2015)	福武総一郎名誉顧問就任 福武純子理事長、松浦俊明副理事長就任 30周年記念事業「岡山大学寄付講座」開始 スミノアン博物館「国吉康雄展」視察 財団公式Facebook開始	G7倉敷子どもサミットの開催 スミノアン博物館(ワシントンDC)「国吉康雄展」開催
平成28年 (2016)	財団設立30周年記念フォーラム開催、記念誌発刊 瀬戸内国際芸術祭2016参加機運の醸成に取り組む	瀬戸内国際芸術祭2016 横浜そごう美術館「国吉康雄展」開催 岡山県立美術館「国吉康雄展」開催 G7倉敷教育大臣会合の開催 第1回岡山芸術交流
平成29年 (2017)		
平成30年 (2018)	西日本豪雨災害に係る義援金寄託(岡山県) 被災地支援緊急助成を行う	西日本豪雨災害発生
令和元年 (2019)	福武哲彦教育賞、谷口澄夫教育奨励賞、福武文化賞、福武文化奨励賞を一本化し福武教育文化賞を制定 教育活動助成、文化活動助成を一本化し教育文化活動助成を制定 福武教育文化賞受賞者フォロー助成を開始 事務所を岡山市北区広瀬町1番5号に移転	瀬戸内国際芸術祭2019 新型コロナウイルス感染症発生
令和2年 (2020)	コロナ禍を乗り越えるための緊急助成を行う 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、フォーラム、助成の成果報告会をオンラインで開催	新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延し緊急事態宣言発令
令和3年 (2021)	財団設立35周年記念事業として、教育文化活動助成の電子申請開始、記念誌発刊、記念公演「国吉康雄記念研究寄付講座2015-2021活動報告と映像・音声作品発表会」の実施 教育文化活動助成に関するアンケート調査実施	新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延し緊急事態宣言発令

役員・評議員一覧／財団法人福武教育振興財団

(※ BC…ベネッセコーポレーション、BH…ベネッセホールディングス)

	昭和61年度(1986)		昭和62年度(1987)	
理事長	谷口澄夫	兵庫教育大学学長	谷口澄夫	兵庫教育大学名誉教授・元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店代表取締役社長	福武總一郎	福武書店代表取締役社長
常任理事	小野啓三	福武書店顧問	小野啓三	福武書店顧問
	坂田注	岡山大学教育学部教授	坂田注	岡山大学教育学部教授
	宮地暢夫	岡山県教育委員会教育長	宮地暢夫	岡山県教育委員会教育長
理事	江見公雄	岡山県中学校長会会長	小山繁	岡山県小学校長会会長
	阪本暁夫	岡山県高等学校長協会会長	長尾俊男	福武書店社長室室長
	長尾俊男	福武書店社長室長	西田譲	岡山県学校図書館協議会会長
	西田譲	岡山県学校図書館協議会会長	平山武茂	福武書店役員
	平山要	岡山県小学校長会会長	横野昭輝	岡山県高等学校長協会会長
	平山武茂	福武書店役員	松井朗	岡山県中学校長会会長
	森嘉吉	岡山県私学協会会長	森嘉吉	岡山県私学協会会長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	蓬郷三郎	福武書店顧問	蓬郷三郎	福武書店顧問
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	岡山大学教育学部教授
	泉本哲夫	山陽新聞社論説委員	泉本哲夫	福武教育振興財団事務局長
	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長
	大塚彌太郎	福武書店部長	大塚彌太郎	福武書店部長
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	奥山憲治	岡山県私学協会副会長
	加計勉	岡山理科大学総長	加計勉	岡山理科大学総長
	片山嘉雄	津山工業高等専門学校校長	片山嘉雄	就実女子大学文学部部長
	杉富士雄	岡山大学文学部教授	河本真佐夫	岡山県PTA連合会会長
	友野澄雄	岡山県立博物館館長	杉富士雄	中国短期大学学長
	永井三郎	福武書店取締役	友野澄雄	岡山大安寺高等学校校長
	原田幸春	福武書店部長	永井三郎	福武書店取締役
	春木伸正	岡山県PTA連合会会長	原田幸春	福武書店部長
	福島保	福武書店部長	福島保	福武書店部長

	昭和63年度(1988)		平成元年度(1989)	
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長	谷口澄夫	元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店社長	福武總一郎	福武書店社長
常任理事	小野啓三	福武書店顧問	小野啓三	福武書店顧問
	坂田注	岡山大学教育学部教授	坂田注	岡山大学教育学部教授
	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長
	宮地暢夫	福武書店顧問	宮地暢夫	福武書店顧問
理事	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長	幾田尚	岡山県学校図書館協議会会長
	杉山定雄	岡山県学校図書館協議会会長	金田睦弘	岡山県小学校長会会長
	中山重義	岡山県高等学校長協会会長	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長
	長尾俊男	福武書店社長室室長	中山重義	岡山県高等学校長協会会長
	平山武茂	福武書店役員	長尾俊男	福武書店社長室室長
	古河三朗	岡山県小学校長会会長	平山武茂	福武書店取締役
	松井朗	岡山県中学校長会会長	福武信子	会社役員
			渡辺孝夫	岡山県中学校長会会長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	蓬郷三郎	福武書店監査役	蓬郷三郎	福武書店監査役
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	岡山大学教育学部教授
	泉本哲夫	福武教育振興財団事務局長	泉本哲夫	福武書店岡山教育研究所顧問
	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長	大嶋知之	福武書店部長
	大嶋知之	福武書店部長	大塚彌太郎	福武書店部長
	大塚彌太郎	福武書店部長	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	奥山憲治	岡山県私学協会副会長
	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	加計勉	岡山理科大学総長
	加計勉	岡山理科大学総長	菅野邦夫	就実女子大学文学部部長
	片山嘉雄	就実女子大学文学部部長	杉富士雄	岡山県町村教育長協議会会長
	杉富士雄	中国短期大学学長	友野澄雄	中国短期大学学長
	友野澄雄	岡山大安寺高等学校校長	永井三郎	岡山大安寺高等学校校長
	永井三郎	福武書店取締役	原田幸春	福武書店常務取締役
	原田幸春	福武書店部長	平松幹章	福武書店部長
	平松幹章	岡山県PTA連合会会長		岡山県PTA連合会会長

	平成2年度(1990)		平成3年度(1991)	
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長	谷口澄夫	元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店社長	福武總一郎	福武書店社長
常任理事	小野啓三 坂田注 竹内康夫 宮地暢夫	福武書店顧問 岡山大学教育学部教授 岡山県教育委員会教育長 福武書店顧問	坂田注 竹内康夫 松浦正義 宮地暢夫	岡山大学教育学部教授 岡山県教育委員会教育長 岡山大学教育学部教授 福武書店顧問
理事	幾田尚 小竹凡子 須賀明 中山重義 長尾俊男 平山武茂 福武信子 分島久志	岡山県学校図書館協議会会長 岡山県国公立幼稚園長会会長 岡山県中学校長会会長 岡山県高等学校長協会会長 福武書店社長室室長 福武書店取締役 会社役員 岡山県小学校長会会長	佃幸男 坪井克己 中山晴人 長尾俊男 則武愛子 福武信子 藤原克己 村岡英臣	岡山県高等学校長協会会長 岡山県学校図書館協議会会長 岡山県中学校長会会長 福武書店社長室室長 岡山県国公立幼稚園長会会長 会社役員 岡山県小学校長会会長 福武書店取締役
監事	甲元恒也 蓬郷三郎	弁護士 福武書店監査役	甲元恒也 蓬郷三郎	弁護士 福武書店監査役
評議員	秋山和夫 泉本哲夫 植田博文 大嶋知之 大森三郎 奥山桂 加計勉 菅野邦夫 杉慎吾 杉富士雄 佃幸男 永井三郎 原田幸春 福井正晃 三戸信子	岡山大学教育学部教授 岡山県地方労働委員会委員 福武書店部長 福武書店部長 岡山県私立幼稚園連盟理事長 岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長 岡山理科大学総長 岡山県町村教育長協議会会長 岡山県私学協会副会長 中国短期大学学長 岡山朝日高等学校校長 福武書店常務取締役 福武書店部長 岡山県PTA連合会会長 岡山市教育センター指導囑託	秋山和夫 泉本哲夫 大嶋知之 大森三郎 奥山桂 加計勉 菅野邦夫 杉慎吾 竹内哲郎 永井三郎 原田幸春 福井正晃 三戸信子 八木智	岡山大学教育学部教授 岡山県地方労働委員会委員 福武書店部長 岡山県私立幼稚園連盟理事長 岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長 岡山理科大学総長 岡山県町村教育長協議会会長 倉敷市翠松高等学校校長 就実短期大学部長 福武書店常務取締役 福武書店部長 岡山県PTA連合会会長 岡山市教育センター指導囑託 福武書店次長

	平成4年度(1992)		平成5年度(1993)	
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長	谷口澄夫	元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店社長	福武總一郎	福武書店社長
常任理事	坂田注 竹内康夫 松浦正義 宮地暢夫	岡山大学教育学部教授 岡山県教育委員会教育長 岡山大学教育学部教授 福武書店顧問	坂田注 松浦正義 宮地暢夫 森崎岩之助	岡山県立大学教授 岡山大学教育学部教授 岡山県立美術館館長 岡山県教育委員会教育長
理事	佐藤博文 佃幸男 内藤昇之助 長尾俊男 服部静香 福武信子 皆木徹典 村岡英臣	岡山県中学校長会会長 岡山県高等学校長協会会長 岡山県小学校長会会長 福武書店社長室室長 岡山県国公立幼稚園長会会長 会社役員 岡山県学校図書館協議会会長 福武書店取締役	近藤昂 高杉早苗 佃幸男 長尾俊男 服部静香 福武信子 皆木徹典 村岡英臣	岡山県中学校長会会長 岡山県小学校長会会長 岡山県高等学校長協会会長 福武書店社長室室長 岡山県国公立幼稚園長会会長 会社役員 岡山県学校図書館協議会会長 福武書店取締役
監事	甲元恒也 蓬郷三郎	弁護士 福武書店監査役	甲元恒也 蓬郷三郎	弁護士 福武書店監査役
評議員	秋山和夫 泉本哲夫 大嶋知之 大森三郎 奥山桂 加計勉 菅野邦夫 杉慎吾 竹内哲郎 永井三郎 原田幸春 三戸信子 森学 八木智	岡山大学教育学部教授 岡山県地方労働委員会委員 福武書店部長 福武書店部長 岡山県私立幼稚園連盟理事長 岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長 岡山理科大学総長 岡山県町村教育長協議会会長 倉敷市翠松高等学校校長 就実短期大学教授 福武書店常務取締役 福武書店部長 岡山市教育センター指導囑託 岡山県PTA連合会会長 福武書店次長	秋山和夫 泉本哲夫 大嶋知之 大森三郎 奥山桂 加計勉 菅野邦夫 杉慎吾 竹内哲郎 永井三郎 原田幸春 三戸信子 森学 八木智	岡山大学教育学部教授 岡山県地方労働委員会委員 福武書店部長 岡山県私立幼稚園連盟理事長 岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長 岡山理科大学総長 岡山県町村教育長協議会会長 倉敷市翠松高等学校校長 就実短期大学教授 福武書店常務取締役 福武書店部長 岡山市教育センター指導囑託 岡山県町村教育長協議会会長 岡山県PTA連合会会長 福武書店次長

	平成6年度(1994)		平成7年度(1995)	
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長	谷口澄夫	元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
常任理事			長尾俊男	BC社長室室長
理事	方川淳	岡山県小学校長会会長	國塩輝昭	岡山県高等学校長協会会長
	坂田注	岡山県立大学教授	坂田注	岡山県立大学教授
	田中泰彦	岡山県中学校長会会長	佐藤信	BC取締役
	戸村彰孝	岡山県高等学校長協会会長	佐藤美登利	岡山県国公立幼稚園長会会長
	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長	親亮一	岡山県中学校長会会長
	長尾俊男	福武書店社長室室長	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長
	服部静香	岡山県国公立幼稚園長会会長	中村通郎	岡山県小学校長会会長
	福武信子	会社役員	福武信子	会社役員
	松浦正義	岡山大学教育学部教授	松浦正義	岡山大学教育学部教授
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	村岡英臣	福武書店取締役	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長
	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長		
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	蓬郷三郎	福武書店監査役	村岡英臣	BC常勤監査役
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	山陽学園大学副学長
	石井稔	山陽放送専務取締役	石井稔	山陽放送専務取締役
	大嶋知之	福武書店部長	今村庸夫	BC中学部部長
	大塚彌太郎	福武書店部長	大塚彌太郎	BC総務部部長
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	加賀道郎	岡山県私学校長会会長
	加賀道郎	岡山県私学校長会会長	片山肇	加計学園理事長・岡山理科大学総長
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	神原彰敬	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	神原彰敬	岡山県私立幼稚園連盟理事長	竹内哲郎	就実短期大学教授
	竹内哲郎	就実短期大学短大部長	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	永井三郎	福武書店専務取締役	永井三郎	BC専務取締役
	堀完一	岡山県町村教育長協議会会長	原田幸春	BC高校部部長
	森学	岡山県PTA連合会会長	堀完一	岡山県町村教育長協議会会長
	八木智	福武書店次長		

	平成8年度(1996)		平成9年度(1997)	
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問	長尾俊男	BC社長室顧問
理事	國塩輝昭	岡山県高等学校長協会会長	大山晋右	岡山県学校図書館協議会会長
	坂田注	岡山県立大学教授	小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長
	佐藤信	BC取締役	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長
	佐藤美登利	岡山県国公立幼稚園長会会長	小坂光一	岡山県小学校長会会長
	玉光源爾	岡山県中学校長会会長	坂田注	岡山県立大学教授
	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長	佐藤信	BC取締役
	福武信子	会社役員	福武信子	会社役員
	松浦正義	岡山大学教育学部教授	古市誠祠	岡山県高等学校長協会会長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	松浦正義	就実女子大学教授
	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	森谷浩平	岡山県小学校長会会長	吉廣俊三	岡山県中学校長会会長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	村岡英臣	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役
評議員	秋山和夫	山陽学園大学副学長	秋山和夫	山陽学園大学副学長
	石井稔	山陽放送代表取締役社長	石井稔	山陽放送代表取締役社長
	稲田晃	岡山県町村教育長協議会会長	稲田晃	岡山県町村教育長協議会会長
	今村庸夫	BC中学部部長	今村庸夫	BC中学部部長
	小川克保	BC総務部部長	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	片山肇	岡山県PTA連合会会長
	片山肇	岡山県PTA連合会会長	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授
	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授	高旗正人	岡山大学教授
	高旗正人	岡山大学教授	田村幸久	BC社長室室長
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	永井三郎	ベネッセグループ共済会理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	西本達二	岡山県私学協会会長	原田幸春	BC高校部部長
	原田幸春	BC高校部部長	丸山哲朗	岡山県私学校長会会長

	平成10年度(1998)		平成11年度(1999)	
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	谷口澄夫	就実学園理事長・就実女子大学学長
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問		
理事	小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長	小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長
	鴨頭脩	岡山県学校図書館協議会会長	鴨頭脩	岡山県学校図書館協議会会長
	岸本憲二	岡山県高等学校長協会会長	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長
	楠田廉	岡山県中学校長会会長	坂田注	岡山大学名誉教授
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	佐藤信	BC取締役
	坂田注	岡山大学名誉教授	雙知正憲	岡山県小学校長会会長
	佐藤信	BC取締役	長尾俊男	前BC社長室室長
	福武信子	会社役員	難波征進	岡山県中学校長会会長
	松浦正義	就実女子大学教授	野嶋淳一	岡山県高等学校長協会会長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	福武信子	南方エンタープライズ代表取締役会長
	渡邊勝也	岡山県小学校長会会長	松浦正義	就実女子大学教授
			宮地暢夫	岡山県立美術館館長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役
評議員	秋山和夫	山陽学園大学副学長	秋山和夫	山陽学園大学学長
	石井稔	山陽放送代表取締役社長	石井稔	山陽放送代表取締役社長
	今村庸夫	BC小中学校事業部部長	今村庸夫	BC文教開発部部長
	榎本大一	岡山県町村教育長協議会会長	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	片山肇	岡山県PTA連合会会長
	片山肇	岡山県PTA連合会会長	菅野増男	岡山県町村教育長会会長
	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	高旗正人	岡山大学教育学部教授
	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	武内眞吾	岡山県私学協会副会長
	田村幸久	BC社長室室長	田村幸久	BC社長室室長
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	原田幸春	BC S&TSカンパニー本部長代行	原田幸春	BC東京支社長

	平成12年度(2000)		平成13年度(2001)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
理事	川井章三郎	岡山県学校図書館協議会会長	川上洋一	岡山県中学校長会会長
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	国司宏	岡山県小学校長会会長
	坂田注	岡山大学名誉教授	坂田注	岡山大学名誉教授
	重利忠弘	岡山県中学校長会会長	平岩武	岡山県高等学校長協会会長
	徳田公裕	岡山県小学校長会会長	平山武茂	BC取締役
	野嶋淳一	岡山県高等学校長協会会長	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長
	平山武茂	BC取締役	宮野正司	岡山県教育委員会教育長
	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	森川直	岡山大学副学長
	森川直	岡山大学副学長	森崎岩之助	岡山県生涯学習センター所長
	森崎岩之助	岡山県生涯学習センター所長	山根健	岡山県学校図書館協議会会長
	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役
評議員	明田英治	BC S&TSカンパニー本部所属長	明田英治	BC小中学校事業部マネージャー
	石井稔	山陽放送代表取締役社長	石井稔	山陽放送代表取締役社長
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	小澤定子	元ノートルダム清心女子大学助教授
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	加計孝太郎	加計学園理事長
	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	木原孝博	倉敷市立短期大学学長
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
	山本啓史	岡山県町村教育長会副会長	高旗正人	岡山大学教育学部教授
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	武内眞吾	岡山県私学協会副会長
	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	吉田耕二	BC社長室室長	山本啓史	岡山県町村教育長会副会長
			吉田耕二	BC秘書室室長

	平成14年度(2002)		平成15年度(2003)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
理事	犬飼舜也	岡山県小学校長会会長	大嶋俊宣	岡山県学校図書館協議会会長
	海本博允	岡山県高等学校長協会会長	奥津竹彦	岡山県高等学校長協会会長
	大嶋俊宣	岡山県図書館協議会会長	坂田注	岡山大学名誉教授
	坂田注	岡山大学名誉教授	中田勲	岡山県中学校長会会長
	平山武茂	BC取締役	平山武茂	BC顧問
	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長
	森川直	岡山大学副学長	森川直	岡山大学教育学部長
	森崎岩之助	岡山県総合文化センター顧問	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
	守屋宣男	岡山県中学校長会会長	山本比香流	岡山県小学校長会会長
	山本泉	岡山県公立幼稚園長会会長	吉澤佳子	岡山県公立幼稚園長会会長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役
評議員	明田英治	BC S&TSカンパニー長	明田英治	BC執行役員 文教カンパニープレジデント
	岡昌利	岡山県町村教育長会副会長	小坂進	岡山県町村教育長会副会長
	加計孝太郎	加計学園理事長	加計孝太郎	加計学園理事長
	木原孝博	倉敷市立短期大学学長	木原孝博	倉敷市立短期大学学長
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	高旗正人	岡山大学名誉教授
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授
	原田三代治	岡山県私学協会会長	原田三代治	岡山県私学協会会長
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長

	平成16年度(2004)		平成17年度(2005)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
常任理事			森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	明田英治	BC執行役員	明田英治	BC執行役員
	大倉徹彦	山陽放送代表取締役社長	大倉徹彦	山陽放送代表取締役社長
	坂田注	岡山大学名誉教授	坂田注	岡山大学名誉教授
	高旗正人	中国短期大学教授・岡山大学名誉教授	高旗正人	中国短期大学教授・岡山大学名誉教授
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授
	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	森川直	岡山大学教育学部長
	森川直	岡山大学教育学部部長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	植田博文	元BC常勤監査役	大塚彌太郎	元BC社長室室長
評議員	家光大蔵	岡山県小学校長会会長	大山正治	岡山県中学校長会会長
	小坂進	岡山県町村教育長会副会長	岡崎明宏	岡山県小学校長会会長
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	岡田浩明	岡山県高等学校長協会会長
	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
	佐藤元信	岡山県私学協会会長	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	佐藤元信	岡山県私学協会会長
	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問
	日笠紘	岡山県高等学校長協会会長	平野尚哉	岡山県町村教育長会副会長
	福田宇一	岡山県中学校長会会長	三村玲子	岡山県公立幼稚園長会会長
	三村玲子	岡山県公立幼稚園長会会長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	山本照雅	岡山県PTA連合会会長	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	吉田耕二	BC秘書室室長	山本照雅	岡山県PTA連合会会長
			吉田耕二	BC秘書室室長

役員・評議員一覧／財団法人福武文化振興財団

(※ BC…ベネッセコーポレーション、BH…ベネッセホールディングス)

平成18年度(2006)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	大倉徹彦	山陽放送代表取締役社長
	坂田注	岡山大学名誉教授
	佐藤信	ベル学園副理事長
	高旗正人	中国短期大学教授・岡山大学名誉教授
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	森川直	岡山大学教育学部長
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	大塚彌太郎	元BC社長室室長
評議員	明田英治	BC執行役員
	門野八洲雄	岡山県教育委員会教育長
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授
	佐川弘治郎	岡山県中学校長会会長
	佐藤元信	岡山県私学協会会長
	柴岡元	岡山県高等学校長会会長
	武泰稔	岡山県町村教育長会会長
	永井三郎	元BC専務取締役
	菱川成雄	岡山県小学校長会会長
	三村玲子	岡山県国公立幼稚園長会会長
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	山本照雅	岡山県PTA連合会長
	吉田耕二	BC渉外部担当部部長

平成9年度(1997)		平成10年度(1998)		
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問	長尾俊男	BC社長室顧問
理事	井上元	山陽新聞社取締役論説主幹	井上元	山陽新聞社取締役事業局長
	柴田一	就実女子大学文学部部長	柴田一	就実女子大学文学部部長
	高橋克明	岡山県立大学学長	高橋克明	岡山県立大学学長
	福武れい子	会社役員	福武れい子	会社役員
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	目瀬守男	岡山大学農学部教授	目瀬守男	美作女子大学学長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	井上真澄	岡山県総合文化センター館長
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長
	富岡要	就実学園専務理事	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	戸村彰孝	岡山市教育委員会教育長	富岡要	就実学園専務理事
	丹羽英喜	設計家	戸村彰孝	岡山市教育委員会教育長
	福武信子	会社役員	丹羽英喜	設計家
	福武美津子	会社役員	福武信子	会社役員
	三宅親連	前香川県香川郡直島町長	福武美津子	会社役員
	山内一則	岡山県総合文化センター館長	三宅親連	前香川県香川郡直島町長

	平成11年度(1999)		平成12年度(2000)	
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・就実女子大学学長	福武總一郎	BC代表取締役社長
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
理事	越宗孝昌	山陽新聞社取締役編集局長	越宗孝昌	山陽新聞社常務取締役編集局長
	柴田一	就実女子大学文学部部長	柴田一	就実女子大学学長
	高橋克明	岡山県立大学学長	高橋克明	岡山大学名誉教授
	長尾俊男	前BC社長室長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	福武れい子	南方エンタープライズ代表取締役社長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	目瀬守男	美作女子大学学長
	目瀬守男	美作女子大学学長		
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	加原耕作	岡山県立博物館館長	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	葛原克人	岡山県立博物館館長
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長
	田村幸久	BC社長室室長	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	富岡要	就実学園専務理事	玉光源爾	岡山市教育委員会教育長
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役
	福武美津子	南方エンタープライズ取締役	吉田耕二	BC社長室室長

	平成13年度(2001)		平成14年度(2002)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
理事	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役
	柴田一	就実女子大学学長	柴田一	就実女子大学学長
	高橋克明	岡山大学名誉教授	高橋克明	岡山大学名誉教授
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	目瀬守男	美作女子大学学長	目瀬守男	美作女子大学学長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授
	谷口弥生	音楽プロデューサー	谷口弥生	音楽プロデューサー
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役
	松井新一	岡山県立博物館館長	松井新一	岡山県立博物館館長
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長

	平成15年度(2003)		平成16年度(2004)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
理事	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務
	柴田一	就実大学学長	柴田一	就実大学学長
	高橋克明	岡山大学名誉教授	高橋克明	岡山大学名誉教授
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	目瀬守男	美作大学学長	目瀬守男	美作大学学長
			森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
監事	甲元恒也	弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授	加原耕作	川崎医療福祉大学教授
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	高山雅之	岡山県郷土文化財団常務理事
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	能登原巧	岡山県立博物館館長
	松井新一	岡山県立博物館館長	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長

	平成17年度(2005)		平成18年度(2006)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務
	柴田一	元就実大学学長	佐藤信	ベル学園副理事長
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	柴田一	元就実大学学長・就実大学名誉教授
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	目瀬守男	美作大学学長	本田茂伸	元岡山県副知事
			目瀬守男	美作大学学長
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	永井三郎	元BC専務取締役
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	芦田和正	岡山県立博物館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	高山雅之	岡山県郷土文化財団顧問	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	片山浩子	岡山外語学院学院長
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	門野八洲雄	岡山県教育委員会教育長
	能登原巧	岡山県立博物館館長	高山雅之	岡山県郷土文化財団顧問
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役
	吉田耕二	BC秘書室室長	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長
			吉田耕二	BC渉外部担当部部长

役員・評議員一覧／財団法人福武教育文化振興財団

(※ BH…ベネッセホールディングス)

	平成19年度(2007)		平成20年度(2008)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	大倉徹彦	山陽放送相談役	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	福武れい子	efu代表取締役社長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	目瀬守男	美作大学名誉学長
	坂田注	岡大名誉教授		
	佐藤信	ベル学園副理事長		
	柴田一	元就実大学学長		
	高旗正人	中国短期大学子ども学部長・岡山大学名誉教授		
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授		
	福武純子	efu取締役		
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長		
	目瀬守男	美作大学学長		
	森川直	岡山大学教育学部教授		
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	大塚彌太郎	元BC社長室長	沼澄夫	沼税理士事務所代表
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	片山浩子	岡山外語学院学院長	大倉徹彦	山陽放送相談役
	門野八洲雄	岡山県教育委員会教育長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授	片山浩子	岡山外語学院学院長
	近藤安介	元ノートルダム清心女子大学教授	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	佐藤元信	岡山県私学協会会長	福武純子	efu取締役
	高山雅之	岡山県郷土文化財団参与	千葉喬三	岡山大学学長
	武泰稔	岡山県町村教育長会会長	福武美津子	efu取締役
	谷一尚	オリエンタ美術館館長	宮野正司	前岡山県教育委員会教育長
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表		
	永井三郎	元BC専務取締役		
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役		
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役		
	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長		
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長		
	松本芳範	BC執行役員常務		

	平成21年度(2009)		平成22年度(2010)	
理事長	福武總一郎	BH取締役会長	福武總一郎	BH取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
	目瀬守男	美作大学名誉学長	目瀬守男	美作大学名誉学長
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼税理士事務所代表	沼澄夫	沼税理士事務所代表
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu取締役	下妻道郎	efu取締役
	千葉喬三	岡山大学学長	千葉喬三	岡山大学学長
	福武美津子	efu代表取締役社長	福武美津子	efu代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長

役員・評議員一覧／公益財団法人福武教育文化振興財団

(※ BH…ベネッセホールディングス)

平成23年度(2011)		
理事長	福武總一郎	BH取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生 福武純子 目瀬守男	岡山旭川ルネサンス代表 南方ホールディングス代表取締役社長 美作大学名誉学長
監事	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 沼税理士事務所代表
評議員	臼井洋輔 大倉徹彦 鍵岡正謹 片山浩子 越宗孝昌 下妻道郎 千葉喬三 福武美津子 森崎岩之助	吉備国際大学教授 山陽放送相談役 岡山県立美術館館長 岡山外語学院学院長 山陽新聞社代表取締役社長 efu取締役 就実学園理事長・前岡山大学学長 efu代表取締役社長 元岡山県教育委員会教育長

平成24年度(2012)		平成25年度(2013)		
理事長	福武總一郎	BH取締役会長	福武總一郎	BH取締役会長
副理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生 千葉喬三 蛭田二郎	岡山旭川ルネサンス代表 就実学園理事長 彫刻家・日本芸術院会員	谷口弥生 千葉喬三 蛭田二郎	岡山旭川ルネサンス代表 就実学園理事長 彫刻家・日本芸術院会員
監事	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 沼税理士事務所代表	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 瀬戸内会計事務所税理士
評議員	臼井洋輔 大倉徹彦 鍵岡正謹 片山浩子 越宗孝昌 島津義昭 下妻道郎 福武美津子 松本芳範	吉備国際大学教授 山陽放送相談役 岡山県立美術館館長 アジアの風岡山外語学院理事長 山陽新聞社代表取締役社長 岡山県産業振興財団理事長・前岡山県副知事 efu取締役 efu代表取締役社長 BH常勤監査役	臼井洋輔 大倉徹彦 鍵岡正謹 片山浩子 越宗孝昌 島津義昭 下妻道郎 福武美津子 松本芳範	元吉備国際大学教授 山陽放送相談役 岡山県立美術館館長 アジアの風岡山外語学院理事長 山陽新聞社代表取締役社長 岡山空港ターミナル代表取締役社長 efu取締役 efu代表取締役社長 BH常勤監査役

	平成26年度(2014)		平成27年度(2015)	
名誉顧問			福武總一郎 BH最高顧問	
理事長	福武總一郎	BH取締役会長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
副理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	松浦俊明	efu取締役
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局长	中野行雄	元岡山県備前県民局局长
理事	臼井洋輔 片山浩子 千葉喬三	元吉備国際大学教授 アジアの風岡山外語学院理事長 就実学園理事長	臼井洋輔 片山浩子 千葉喬三	元吉備国際大学教授 アジアの風岡山外語学院理事長 就実学園理事長
監事	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 瀬戸内会計事務所税理士	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 瀬戸内会計事務所税理士
評議員	鍵岡正謹 越宗孝昌 島津義昭 下妻道郎 原憲一 福武美津子 許南浩 松本芳範 宮野正司	岡山県立美術館館長 山陽新聞社代表取締役会長 岡山空港ターミナル代表取締役社長 efu取締役 山陽放送代表取締役社長 efu代表取締役社長 岡山大学副学長 BH常勤監査役 元岡山県教育委員会教育長	越宗孝昌 島津義昭 下妻道郎 原憲一 福武美津子 許南浩 松本芳範 宮野正司 守安收	山陽新聞社代表取締役会長 岡山空港ターミナル代表取締役社長 efu取締役 山陽放送代表取締役社長 efu代表取締役社長 岡山大学副学長 BH常勤監査役 元岡山県教育委員会教育長 岡山県立美術館館長

	平成28年度(2016)		平成29年度(2017)	
名誉顧問	福武總一郎	BH名誉顧問	福武總一郎	BH名誉顧問
理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	松浦俊明	efu取締役
副理事長	松浦俊明	efu取締役	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局长	中野行雄	元岡山県備前県民局局长
理事	片山浩子 谷一尚 千葉喬三	アジアの風岡山外語学院理事長 林原美術館館長・山陽学園大学副学長 加計学園相談役・前就実学園理事長	谷一尚 千葉喬三 福武美津子	林原美術館館長・山陽学園大学副学長 加計学園相談役 efu代表取締役社長
監事	佐藤由美子 沼澄夫	佐藤法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表	佐藤由美子 沼澄夫	奥田法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表
評議員	越宗孝昌 下妻道郎 中島義雄 原憲一 福武美津子 許南浩 松本芳範 宮野正司 守安收	山陽新聞社代表取締役会長 efu取締役 ナカシマホールディングス常務取締役 山陽放送代表取締役社長 efu代表取締役社長 岡山大学副学長 BH常勤監査役 元岡山県教育委員会教育長 岡山県立美術館館長	足羽憲治 越宗孝昌 下妻道郎 中島義雄 原憲一 許南浩 松本芳範 宮野正司 守安收	前岡山県副知事 山陽新聞社取締役会長 efu取締役 ナカシマホールディングス常務取締役 山陽放送代表取締役会長 倉敷芸術科学大学学長補佐 BH常勤監査役 元岡山県教育委員会教育長 岡山県立美術館館長

	平成30年度(2018)		令和元年度(2019)	
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問
理事長	松浦俊明	efu 取締役	松浦俊明	efu 取締役
副理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局長	中野行雄	元岡山県備前県民局長
理事	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長
	福武美津子	株式会社サークルハウスコーポレーション代表取締役社長	福武美津子	efu 代表取締役社長
	森田潔	一般社団法人 OUMC 理事長・前岡山大学学長	森田潔	川崎医科大学特任教授・前岡山大学学長
監事	佐藤由美子	奥田法律事務所弁護士	佐藤由美子	奥田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼澄夫税理士事務所代表	沼澄夫	沼澄夫税理士事務所代表
評議員	足羽憲治	前岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長	足羽憲治	前岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長
	越宗孝昌	山陽新聞社取締役会長	越宗孝昌	山陽新聞社取締役会長
	下妻道郎	efu 取締役	下妻道郎	efu 取締役
	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・岡山県公務員弘済会岡山支部支部長	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・岡山県公務員弘済会岡山支部支部長
	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役
	原憲一	山陽放送代表取締役会長	原憲一	RSK ホールディングス代表取締役会長
	許南浩	倉敷芸術科学大学学長補佐	許南浩	倉敷芸術科学大学副学長
	松本芳範	BH 常勤監査役	松本芳範	BH 常勤監査役
	守安收	岡山県立美術館館長	守安收	岡山県立美術館館長

	令和2年度(2020)		令和3年度(2021)	
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問
理事長	松浦俊明	efu 取締役	松浦俊明	南方ホールディングス取締役
副理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局長	中野行雄	元岡山県備前県民局長
理事	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長
	福武美津子	efu 代表取締役社長	福武美津子	efu 代表取締役社長
	森田潔	川崎医科大学特任教授・前岡山大学学長	森田潔	川崎医科大学特任教授・前岡山大学学長
監事	佐藤由美子	奥田法律事務所弁護士	佐藤由美子	奥田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼澄夫税理士事務所代表	沼澄夫	沼澄夫税理士事務所代表
評議員	足羽憲治	元岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長	足羽憲治	元岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長
	越宗孝昌	山陽新聞社相談役	大原あかね	大原美術館代表理事理事長
	下妻道郎	efu 取締役	越宗孝昌	山陽新聞社相談役
	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・岡山県公務員弘済会岡山支部支部長	下妻道郎	南方ホールディングス取締役
	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・岡山県公務員弘済会岡山支部支部長
	原憲一	RSK ホールディングス代表取締役会長	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役
	許南浩	倉敷芸術科学大学副学長	原憲一	RSK ホールディングス代表取締役会長
	松本芳範	BH 常勤監査役	許南浩	倉敷芸術科学大学副学長
	守安收	岡山県立美術館館長	松本芳範	BH 常勤監査役
			守安收	岡山県立美術館館長

表紙について

「多様な主体による多彩な活動」を支えてきた35年。にぎやかで、教育的な要素も入れつつ、パズルのようなパターンで構成しました。

日本の吉祥文様「七宝文様」をベースに、パズルであっても幾何学的で冷たい印象にならず、有機的な変化を楽しめるものにしました。

軸原ヨウスケ

公益財団法人福武教育文化振興財団 設立35周年記念誌

2022年6月1日 発行

編・著 公益財団法人福武教育文化振興財団
発 行 公益財団法人福武教育文化振興財団
〒700-0806 岡山市北区広瀬町1番5号
(株)ベネッセコーポレーション広瀬町社屋
TEL : 086-221-5254 FAX : 086-232-3190
URL : <http://www.fukutake.or.jp>
E-MAIL : eczaidan@fukutake.or.jp

編集協力・制作
株式会社吉備人

表紙デザイン
軸原ヨウスケ (COCHAE / 株式会社オンチュウ)

印 刷 研精堂印刷株式会社

製 本 日宝綜合製本株式会社



福武教育文化振興財団
ウェブサイト



コミュニケーション・マガジン
and F | アンドエフ



教育文化活動助成
成果報告書アーカイブ